目　次

ごあいさつ　P1～4

20 周年記念メッセージ　P5～11

習志野市とブリスベン市　P13～16

谷津干潟とブーンドル湿地　P17～28

交流経緯　P29～32

訪問交流の記録　P33～70

将来に向けて　P71～74

湿地提携協定書行動計画書　P75～87

附録　P89～95

ごあいさつ　《 20 周年の軌跡 ～これまでの交流を後世へ～ 》

習志野市長
宮本　泰介

「習志野市＆ブリスベン市湿地交流 20 周年記念誌」の発行に当たり、一言御挨拶申し上げます。

本市とブリスベン市は、両市を行き交う渡り鳥の保護や環境保全を目的として、1998（平成 10）年 2 月 25 日に湿地提携に関する協定を締結し、今日まで市民が中心となって谷津干潟自然観察センター（YNOC）とブーンドル湿地（BWEC）を拠点とした交流を深めてまいりました。

そして今年、交流 20 周年という輝かしい節目を迎えられましたのも、これまで交流に携わってこられた関係者の方々の熱意と御尽力の賜物であり、習志野市を代表して深く敬意を表すとともに、心より感謝申し上げます。

2017（平成 29）年 2 月には、「湿地提携に関する協定」に基づき策定いたしました行動計画の満了に伴い、新たな計画の更新をするため、ブリスベン市を訪問させていただきました。

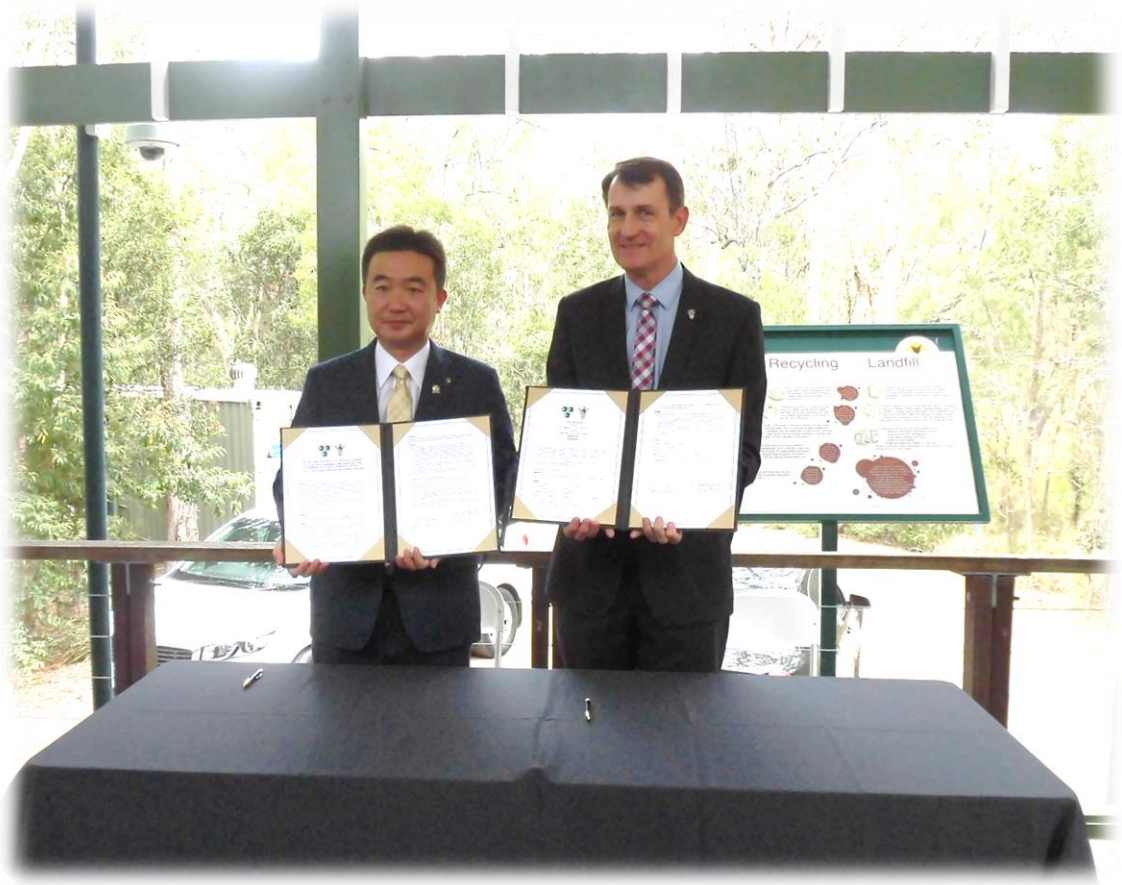
現地においてブーンドル湿地の保全等に関わる方々と直接意見を交わすことで、湿地を保全する必要性、渡り鳥の保護に伴う国際的な協力に関することなど、多くのことを学ばせていただきました。それと同時に、互いの湿地を直接見て肌で感じ、情報を交換することは大変貴重な体験であり、この交流におけるかけがえのない財産となることを実感いたしました。

この記念誌には、谷津干潟とブーンドル湿地の違いや歴史、湿地交流の経緯をはじめ、交流時の写真も多く掲載させていただきました。御一読いただければ、活動の必要性はもとより、これまで多くの方々がそれぞれの湿地に関わり、生き物や湿地を通じて絆を深めてきたことに、共感いただけるのではないでしょうか。

谷津干潟とブーンドル湿地に生息するシギ・チドリ類は、人為的な国境に左右されず、あらゆる国々を渡っていくことから、湿地の保全や渡り鳥の保護には国際的な協力が必要不可欠です。

これまで両市が築き上げてまいりました相互協力と交流の記録を、この記念誌によって後世に残していくことが、将来谷津干潟に携わる方々への橋渡しの一助となれば幸いです。

結びに、本市とブリスベン市が今後より一層交流の幅を広げていくとともに、互いに多くのことを学び合い、両市の更なる発展へとつながることを祈念いたしまして御挨拶といたします。



<左：宮本市長　右：グレアム市長>

ごあいさつ

ブリスベン市長
グレアム・クワーク

私たちブリスベン市は 1998 年に習志野市と湿地提携協定を締結しました。この協定は、谷津干潟とブーンドル湿地に対する理解やその保全および保護を推進することを目的とするものです。

谷津干潟とブーンドル湿地は、東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップに参加しており、互いの湿地を行き来する渡り鳥の重要な生息地となっています。

湿地提携協定は、谷津干潟とブーンドル湿地が湿地および湿地資源の保護に関するラムサール条約の「国際的に重要な湿地のリスト」へ登録されたことに端を発して、1998 年 2 月 25 日に締結されました。

以来、5 ヵ年計画の締結を 3 回、2017 年 2 月には 4 回目となる長期実施計画の調印を行いました。この協定によって、ブリスベン市と習志野市が極めて重要な湿地の保全・保護に取り組んでいくことに合意しており、長期実施計画に調印できたことを嬉しく思います。

2016 年にはブーンドル湿地環境センターが開館 20 周年を迎え、この特別な機会に習志野市の訪問団をお迎えすることができました。

現在ブリスベン市は、ブーンドル湿地に新しい環境施設の建設を予定しています。この施設はブリスベン市を清潔で緑にあふれた都市にし、また子や孫の世代にとって住みやすい持続可能な都市にするためのブリスベン市の取り組みのひとつです。この環境施設によって既存のブーンドル湿地環境センターの他に新たな施設が追加されることになります。同センターは、本市北部にある湿地とモートン湾とのつながりの生態学的意義および価値を紹介する施設であり、この湿地を利用する比類のない動植物を紹介することで、湿地が沿岸域管理において果たす重要性に光を当てることでしょう。驚きと好奇心をかきたてる要素を盛り込み、来館者に自然環境の楽しさを促すことがこの環境施設の最大のテーマと考えています。

ブリスベン市の自然には、湿地の干潟、マングローブ林、疎林などがあり、様々な野鳥がそれらを住まいとして利用しています。ブーンドル湿地には 190 種を超える鳥が生息しています。以下にその例を挙げます。

・オーストラリアカタグロトビ、シロガシラトビなどの猛禽類の仲間
・干潟に生息するチュウシャクシギなどのシギやチドリの仲間
・湿地内で採餌するカモの仲間、サギの仲間、ウの仲間
・マングローブ林に生息するカワセミ
・マングローブ林内のボードウォークに生息するハチクイ

世界中から渡ってくるシギ・チドリ類は餌が豊富な干潟で採食し、海岸の塩性湿地やマングローブ林で休息します。春になると、これらの鳥たちはシベリア、中国、モンゴル、アラスカ、そしてもちろん日本からもモートン湾に渡ってきます。毎年、数多くのシギ・チドリ類が習志野市とモートン湾の間を行き来し、9 月から 3 月までは、通常、ブーンドル湿地に留まっています。

私たちは習志野市の皆様と協力し、将来世代のために貴重な湿地生態系を引き続き守っていくことを楽しみにしております。

20 周年記念メッセージ

習志野市とブリスベン市は、多くの方々の協力により湿地交流 20 周年を迎えることができました。

谷津干潟自然観察センター（YNOC）やブーンドル湿地環境センター（BWEC）、湿地交流が始まった当時の職員やボランティアなど、各関係者よりお祝いのメッセージやそれぞれの思いなどを言葉にしていただきました。

湿地交流の発展を祈念して

谷津干潟自然観察センター（YNOC）
所長　荒尾　一樹

ブリスベン市との湿地交流が、めでたく記念すべき 20 周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

谷津干潟は都会に残された貴重な湿地であることから、1993 年にラムサール条約登録湿地に認定されました。そして翌年に谷津干潟自然観察センターが設立されました。センターの主な取り組みとして環境教育、市民参加事業、谷津干潟の保全などが挙げられますが、中でも重要なのが国際交流・ネットワーク事業です。

谷津干潟にはオーストラリアなどの越冬地からシベリアなどの繁殖地まで旅するシギ・チドリ類が中継地として飛来します。このような渡り鳥を守るためには、お互いの国々が協力する必要があります。センターでは毎年、ブリスベン市と交流を行い、情報を交換し、お互いの湿地を知ることで、渡り鳥と湿地の保全に役立てています。

今後もブリスベン市との交流を密にして、より活発な湿地保全活動が展開されることを祈念してお祝いのご挨拶とさせていただきます。

未来へ、湿地交流 20 年を節目に

谷津干潟自然観察センター（YNOC）
湿地交流担当　小山　文子

20 周年おめでとうございます。

湿地交流が 20 年間も継続したことは、ボランティアやブリスベンの皆さんがシギ・チドリ類への愛情を持ち、湿地の保全に情熱を注いできたからで、その歴史に立ち会えたことは極めて得難いことだと感じています。

この 20 年間、国境を越えて渡るシギ・チドリ類の個体数は減少傾向にあり、谷津干潟の飛来数も減っています。もっと彼らからのメッセージを感じとり、国境を越えて湿地を大切にしていかなければなりません。観察センターは、人と自然、人と人をつなげる拠点です。たくさんの方に渡り鳥を見ていただき、世界とのつながりを感じてもらいたいと思います。そして、この 20 年の歩みを若い世代の方につなげ、みなさんと共に、渡り鳥と湿地のために何ができるのかを考え、新たな気持ちで取り組んでいきたいと思います。

ブリスベン交流 20 周年を祝して

習志野市立谷津南小学校
校長　佐久間　繁美

ブリスベン市との交流 20 周年、誠におめでとうございます。本校は谷津干潟観察センターの対岸にあります。

1986 年（昭和 61 年 4 月）に市内 16 番目の小学校として開校し、今年で 32 年目になります。

学校の目の前には谷津干潟が広がり、この干潟には毎年多くの渡り鳥が飛来します。この鳥たちは遠くオーストラリアから日本、そしてシベリアまで行き来しています。つまり環境は一つの国だけのものではないということがわかります。

以前、ブリスベン市と谷津南小学校が盛んに交流していた歴史があります。学校に残っている資料をひも解いてみますと 1998 年から始まったということがわかりました。ブリスベン市のいくつかの学校交流では手紙の交換だけでなくインターネット回線を通しての交流が行われていたとの記録もございました。その後、震災などがあり、交流は少し遠のいてしまったとのことでした。

しかし、幸いなことに一昨年度からはまた、交流が復活し、ブリスベン市の職員の方を本校に招き、子どもたちと楽しい時間を過ごす機会を得ています。これらの交流は本校の子どもたちにとって忘れることのできない楽しいひと時になっております。

これからも谷津南小が習志野市とブリスベン市を結ぶ渡り鳥のような役割を担えることを祈念してお祝いの御挨拶といたします。

谷津干潟&ブーンドル湿地　湿地交流 20 周年を迎えて

谷津干潟自然観察センター（YNOC）
元所長　長谷川　昭仁

澄みきった青空とつややかな緑、マングローブ林を抜ける涼しい浜風と広大に広がる干潟、そしてあかるい笑顔の友人達、20 年前に訪れたブーンドル湿地の光景です。何から手をつけてよいか迷いながら、両湿地に関わるスタッフ・ボランティア・保護団体の方々と一緒に取り組んできた湿地交流事業でした。現在も隔年毎に双方の湿地関係者による訪問が行われ、湿地と水鳥の保全保護活動が行われていることをうれしく感じています。

私も、これまで谷津ボランティア訪問団の一員として 10 数回訪れ、ブーンドル湿地に多くの友人や知人を持つことが出来ました。今では、ブーンドル湿地が第二のふるさとのように感じています。近年では生徒達の訪問もみられるようになり、心残りであった、将来を担う子供達の参加が継続的に行われるようになることを期待しております。

鳥がとり持つ絆の湿地交流

日本野鳥の会千葉県
会長　志村　英雄

日本野鳥の会千葉県は、習志野市とブリスベン市が 1998 年に「湿地の保全と渡り鳥の保護」を目的に提携した湿地交流事業に賛同し、2002 年と 2005 年にブリスベン市を訪問し、ブリスベン市を活動拠点とするクイーンズランド渉禽類研究会（以下 QWSG）と共にバードウォッチング、鳥の標識調査の見学、シンポジウムなどを行っています。

2006 年に QWSG 会員が日本でバードウォッチングと講演を行い、2008 年に本会会員がブリスベン市で講演を行いました。これら一連の事業から両団体の交流が深まり、2010 年に QWSG とともに、「ジオロケーター利用によるキアシシギの渡りルート解明」の共同事業を展開し、7 年間の現地作業などを経て、2016 年に成功裡に終了しました。この共同事業は、両市の湿地提携の目的である「湿地の保全と渡り鳥の保護」を具体的に実現するものであり、両市の提携が実を結んだと言えます。

今後も、鳥類の保護団体として、交流事業に協力できれば幸いです。

NEXT20

Y＆B 湿地交流協会
会長　阿久津　斉

習志野市とブリスベン市で締結された湿地交流事業の五本柱の一つ「地域の人々による交換訪問」に 1999 年から関わっています。習志野市からの訪問、ブリスベン市からの来日の対応を続けるうちに、個人ではなく、組織的な取り組みの必要性を痛感し、両市の市民交流の発展と継続に寄与するため、2013 年に「Y&B 湿地交流協会」を設立しました。今までの経験を生かして情報提供や両市訪問の支援をしています。ブリスベンを訪問された市民は、その後も交流のお役に立ちたいという人が多く、本会がその受け皿となり支援の力になっています。不思議なもので、団体があると主旨に賛同して入会したいとの申し込みもあります。

この行政が作ってくれた湿地交流という道をさらに太くするために、現在の事業に加えて、湿地交流に関する国内外に向けた情報発信、青少年の参画、市民交流チャンネルの多様化などの課題に向き合い、湿地交流を支えていきたいと思っています。

ブーンドル湿地環境センター（BWEC）
コーディネーター　アンドリュー・ミークルジョン

湿地提携 20 周年をお祝いするにあたり、ブーンドル湿地環境センターといたしましては、谷津干潟自然観察センターとの友情、そして提携の成果を誇りに感じております。

この協定の締結以来、湿地の価値や利点、両湿地に棲息するシギ・チドリ類の窮状に対する関心を高めるため、私たちは常に努力してまいりました。私たちは、湿地やシギ・チドリ類を大切にするよう市民に呼びかけており、同じフライウェイにある谷津干潟の皆様も同様の努力をされていることは、私どもにとってとても励みになっております。

ブリスベン市と習志野市の湿地提携協定によって、長きにわたり両市間に特別な関係がもたらされ、習志野市の谷津干潟自然観察センターとブリスベン市のブーンドル湿地環境センターの職員やボランティアの間で強力な絆が生まれています。アイデアやリソースを共有し合うことによって、私たちは数多くの教育プログラムや教材を開発してきました。谷津干潟自然観察センターからご贈呈いただいた「紙芝居」の手法を取り入れた、トウネンのトムの物語「世界の翼」プログラムは、地元の学校向けに開発した教育プログラムの優れた例となりました。

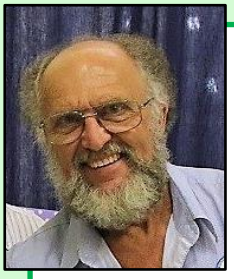
この関係を通じて、私たちは世界湿地の日やファミリー・ファン・デイなど数々の地域行事を開催しており、その多くにおいて、谷津干潟自然観察センターの職員やボランティアの皆様がアクティビティーを実施してくださっています。

最近では、BrisAsia フェスティバルや、年 1 回ブリスベンで開催される日本文化の日などの文化行事や催しにおいて、この協定と湿地やシギ・チドリ類の価値について広報活動を行いました。

また、この協定はブリスベン市の人々の心をひとつにするのにも役立っています。私たちは、クイーンズランド渉禽類研究グループ、ブリスベン港、クイーンズランド野生生物保護協会、モートン湾海洋公園、ナッジビーチ環境教育センターなど、様々な団体と密接に協力し、提携関係を結んで成果をあげています。これらのパートナーとともに「海岸線を分かち合う」という DVD やキオスク端末、移動式インタラクティブ・ディスプレイのほか、私どものマスコット「ホウロクシギのエリー」などを制作してまいりました。

両市の交流はブーンドル湿地環境センターの職員やボランティアに対して大きな影響を与え、谷津干潟自然観察センターの皆様の情熱的で独創的な取り組みが私たちを大きく刺激しており、非常に感銘を受けております。両湿地に棲息する特別な鳥たちを守るためには、国を跨いだ協調や行動が必要です。このかけがえのない協定は、国際的な努力を支援するための先鞭であり、国を跨いだ協力が可能であることを示すものとして、両市が誇りにすべきものです。

20 年という節目の年を迎え、今後とも長期にわたり実りある関係が続いていくことを願っております。



クイーンズランド渉禽類研究会（QWSG）
会長　デイビッド・エドワーズ

クイーンズランド渉禽類研究会は、両市の行政、市民、そしてボランティアの皆様と協力し合うことができることを喜ばしく感じております。

クイーンズランド渉禽類研究会では、設立時より渉禽類に関する知識を深め、渉禽類保護の手助けをする唯一の方法は、国際協力であると認識しております。この目的を達成するため、クイーンズランド渉禽類研究会と日本野鳥の会千葉県による共同の活動は大きな成果をあげており、クイーンズランド渉禽類研究会の会員全員が、新たな協力の機会をしきりに待ち望んでいます。

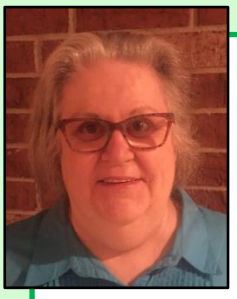
日本の皆様による地元の人々に対する啓発活動を拝見させていただくことは、オーストラリアにいる私どもにとって気づきの場となっており、谷津干潟自然観察センターと同じように若者がボランティア活動に参加してくれればとただ祈るばかりです。ジュニアレンジャー・プログラムは、両市の湿地を訪れる渉禽類を大人になっても保護しようとする熱意に溢れる人々を、将来に向けて育成し続ける場となっています。

クイーンズランド渉禽類研究会では、バンディングのほか、フラッグや衛星送信機を使用するプログラムを活発に行っています。このプログラムによって、私たちが愛して止まない渡り鳥の移動に関する新しい情報が大量に得られ、私たちはこうした情報を今後も収集していくつもりです。最近ではムナグロの移動について、地元の領域だけでなく国をまたぐ渡りルートに関する知識が得られています。こうした知識はブリスベン市内の餌場やねぐらの保護に役立つだけでなく、日本を含む各中継地の国際的な重要性に光をあてることにもなります。

しかし、この作業はお金がかかるものであり、日本野鳥の会千葉県の皆様やその他関係者の皆様にはご協力とご支援をいただいていることを心より感謝しております。これは、人為的な国境に縛られることなく移動する渡り鳥が人間の活動によって影響を受けることがないよう、国境を越えて協力し合うことができる証です。

行政間での祝い事で見逃されがちなことのひとつに、草の根での交流があります。習志野市を訪問したクイーンズランド渉禽類研究会の会員全員が、草の根でのこうした交流が今後も恒久的に継続されていくことを願っています。

クイーンズランド渉禽類研究会より、習志野市とブリスベン市の協定、そして日本野鳥の会千葉県とクイーンズランド渉禽類研究会との協力が 20 周年を迎えるにあたり、お祝いを申し上げます。今後さらに多くの協力ができることを楽しみにいたしております。



ブーンドル・ティンチタンバ湿地ケア
会長　ジェニファー・シンフィールド

ブーンドル・ティンチタンバ湿地グループのボランティアたちは、習志野市との協定が締結されるよりもずっと前から、ブリスベン市の湿地と干潟を救う活動を行っていました。そのため、習志野市との協定が締結された際、私どものグループもこの素晴らしい協定に自然と協力させていただくこととなりました。

私たちの会員は、谷津干潟の皆様とともに過ごす時間をとても楽しんでいます。私たちの湿地の良さをこれほどまでにご理解いただけるお客様たちにお越しいただけることは、非常に嬉しいことです。私どもの会員が谷津干潟を訪問する際には、最高のおもてなしをしていただいており、また、「建造物によって完全に囲まれてしまっている湿地」に対する谷津干潟のボランティアの皆様の献身的な姿には強く感銘を受けております。

何百人もの人が谷津干潟自然観察センターを訪れる谷津干潟の日は、とても刺激になっています。2 つの湿地は、物理的な環境が極端に異なっていますが、両グループが私たちの環境、特に渉禽類について抱いている懸念は同じです。

それ以外に、ナッジビーチ環境教育センターとアーンショー・カレッジの地元の生徒たちも、チームの一員となっています。ここ何年かで生徒たちは、地元の湿地について学び、そして谷津干潟を訪問しており、生徒たちにとって優れた体験学習の場となっています。

習志野市との協定が長年にわたり成功を収めているのは、日豪両国のあらゆるレベルの行政、両市の学校、そして数多くの現地ボランティアといった関係者の皆様のおかげです。

渉禽類とその生息地を守る努力を続ける中で、素晴らしい協力関係と多くの友情が生まれています。

渉禽類たちが長きにわたって飛び続けることを祈っております。

豆知識◎

東アジア・オーストラリア地域
シギ・チドリ類重要生息地ネットワーク

「東アジア・オーストラリア地域シギ・チドリ類重要生息地ネットワーク」とは、シギ・チドリ類の重要な生息地を協力して保全するための多国間ネットワークです。

渡り鳥の中で最も長い距離を移動するシギ・チドリ類にとって、繁殖地、越冬地、中継地である重要な湿地がこのネットワークに参加しており、谷津干潟とブーンドル湿地も参加しています。

なお、現在は「東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ」に引き継がれています。

※赤い枠内が、シギ・チドリ類のフライウェイです。

習志野市とブリスベン市

習志野市とブリスベン市を比較してみましょう。

習志野市の誕生

明治 22（1889）年、谷津・久々田・鷺沼・藤崎・大久保新田の 5 つの村を合併した「津田沼村」が誕生、その後「津田沼町」となり、実籾・屋敷は「幕張町」の一部となりました。

明治 6（1873）年に小金牧の一部が陸軍の演習場となり、明治天皇に「習志野原」と命名されたことから、昭和 29（1954）年に千葉市の一部を編入合併し、「習志野市」が誕生しました。

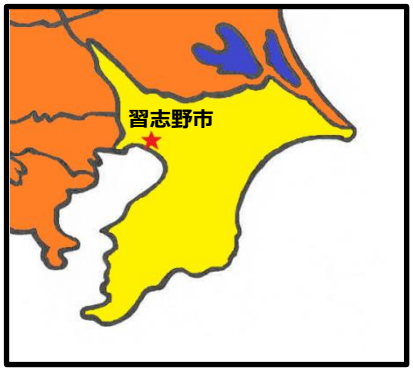
習志野市の特徴①

習志野市は千葉県の北西部に位置しており、千葉市・船橋市・八千代市と接し、東京湾に面しています。面積が県内で 4 番目に小さく、コンパクトなまちですが、人口密度は県内で 3 番目に高くなっています。

習志野市の特徴②

東京湾沿いの海岸部には、埋め立てた住宅地や商工業地が広がっており、自然地形からなる内陸部との高低差が大きくなっています。

習志野市

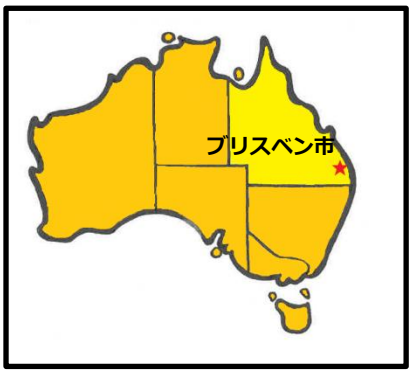


面積	20.97 ㎢
人口	170,923 人
世帯数	76,816 世帯
市政施行	1954 年

※人　口：2016 年 6 月 30 日現在
　世帯数：2016 年 6 月 30 日現在

市章

ブリスベン市



面積	1,340.3 ㎢
人口	1,184,215 人
世帯数	404,161 世帯
市政施行	1859 年

※人　口：2016 年 6 月 30 日現在
　世帯数：2016 年国勢調査より

市章

ブリスベン市の誕生

　ニューサウスウェールズ州の知事だったトーマス・ブリスベンが、囚人を収容するための土地を探し、その際に発見した川と土地を「ブリスベン」と命名しました。
　1859 年にニューサウスウェールズ州よりクイーンズランド州が分離し、「ブリスベン市」が誕生、ブリスベン市はクイーンズランド州の州都と定められました。

ブリスベン市の特徴①

　ブリスベン市はクイーンズランド州の州都であり、シドニー、メルボルンに次ぐオーストラリア第 3 の都市です。
　クイーンズランド州の中で最も人口が多く、オセアニア有数の世界都市でもあります。

ブリスベン市の特徴②

　市域にブリスベン川が流れていることから、公共交通機関として通勤や通学などにフェリーが利用されています。
　また、自転車の貸し出しシステムも整備されています。

習志野市の花

アジサイ

ブリスベン市の花

ジャカランダ

谷津干潟とブーンドル湿地

谷津干潟　＜Yatsu-higata＞

面積	40 ヘクタール
ラムサール条約登録日	1993 年 6 月 10 日

概要　谷津干潟は東京湾の最奥部に位置しており、住宅や道路に囲まれている長方形の干潟です。潮の干満が生じ、満潮時には水深約 1m の海水面となります。

※ブーンドル湿地はラムサール条約に登録されている「モートン湾」の一部です。

ブーンドル湿地　＜Boondall Wetlands＞

面積	1,166 ヘクタール
ラムサール条約登録日	1993 年 10 月 22 日
概要	ブーンドル湿地はブリスベン市の中心街から北へ約 15km のモートン湾の端に位置し、湿地には干潟・マングローブ・草原・森林などが含まれています。

<谷津干潟>

谷津干潟は、かつて東京湾の奥部に存在した前浜干潟の一部で、1970 年代に周囲の埋め立てが進む中、地元の保全活動により現在のかたちが残されました。

コンクリート壁で囲まれ、周辺には住宅地や商工業地が広がっています。

両端にある 2 本の河川によって東京湾と繋がっており、潮の満ち引きにより干満が生じます。

また、シギ・チドリ類の飛来地であり、ラムサール条約登録湿地及び東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップの参加湿地でもあります。

谷津干潟では 1911（明治 44）年頃まで遠浅の砂浜を利用して、入浜式塩田による製塩が行われていました。しかし、度重なる暴風雨により廃業。跡地は谷津遊園地として整備されました。

谷津遊園地は動物園・バラ園・遊園地などから構成され、レクリエーション施設として 1982（昭和 57）年に閉園するまで多くの方に親しまれていました。

1971（昭和 46）年から谷津干潟周辺の海域が埋めたてられ、これらの工事および計画に対し、市民団体による保護運動が開始されました。

市民団体による保護運動や地域の方々の保全活動により埋め立ては中止され、谷津干潟は都市の中にある貴重な自然財産として残されることとなりました。

1988（昭和 63）年には、住民の保護運動により環境庁（現：環境省）が谷津干潟（41.2 ヘクタール）を国設鳥獣保護区に指定、また、一部（40.1 ヘクタール）を特別保護地区に指定しました。

その後、1993（平成 5）年に谷津干潟はラムサール条約登録湿地となり、干潟としては国内で初めての登録となりました。

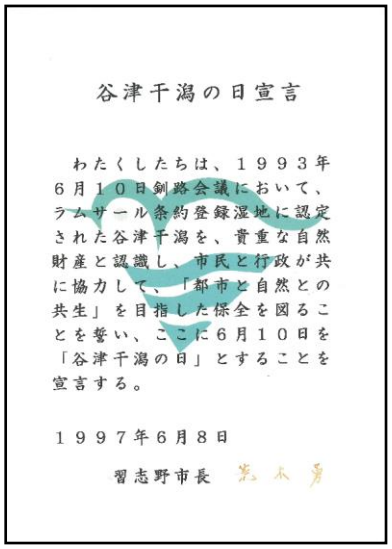
谷津干潟がラムサール条約登録湿地となった翌年、野鳥の観察や環境学習を行うための施設として谷津干潟自然観察センターがオープンしました。

谷津干潟を一望できる観察フロアやビデオ上映などを行うレクチャールームがあり、観察センター内はレンジャー（観察センター職員）やボランティアが来館者の観察案内を行っています。

習志野市では、貴重な自然財産の保全意識向上と情報共有を目的に、谷津干潟がラムサール条約登録湿地となった６月 10 日を「谷津干潟の日」と制定しました。

毎年「谷津干潟の日」にはイベントを開催しており、多くの来場者で賑わっています。

また、2016（平成 28）年度からは「谷津干潟の日」だけでなく、５月から「谷津干潟の日」頃までの約１ヶ月半を「谷津干潟の日フェスタ」と称し、期間中にさまざまなイベントを開催しています。



谷津干潟の日宣言

わたくしたちは、１９９３年６月１０日釧路会議において、ラムサール条約登録湿地に認定された谷津干潟を、貴重な自然財産と認識し、市民と行政が共に協力して、「都市と自然との共生」を目指した保全を図ることを誓い、ここに６月１０日を「谷津干潟の日」とすることを宣言する。

１９９７年６月８日

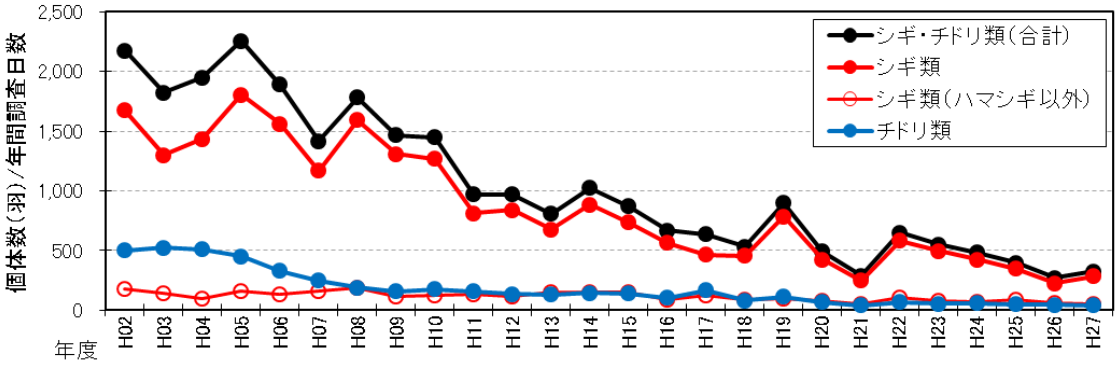
習志野市長

谷津干潟自然観察センターでは、毎年２月２日の「世界湿地の日」にも月間イベントを開催しており、どちらのイベントも多くの来場者で賑わっています。

谷津干潟に飛来するシギ・チドリ類の個体数は、ラムサール条約に登録された頃と比較すると減少傾向が見られます。

谷津干潟にはハマシギが多く飛来しますが、そのハマシギの減少がシギ類の減少に繋がっており、また、チドリ類の個体数はさらに減少が著しく、現在も減少したままです。

谷津干潟に飛来するシギ・チドリ類の個体数がこれ以上減少しないよう、ひとりひとりが湿地の保全や渡り鳥の保護に関心を向け、努めていく必要があります。



出展：環境省関東地方環境事務所発行
平成 28 年度 国指定谷津鳥獣保護区保全事業推進業務 報告書より

クイーンズランド州の
フラグを装着した渡り鳥が
谷津干潟で確認されています！
このフラグは
ブリスベン市内で
つけたものです！
ARK

<ブーンドル湿地>

ブーンドル湿地はブリスベン市中心街から約 15km 離れたモートン湾の端にあります。1,166 ヘクタールの湿地には、干潟・マングローブ・草原・森林などが含まれています。

ブリスベン市の中で最も大きく残されている湿地であり、渡り鳥にとって重要な中継地・越冬地としてラムサール条約に登録されました。

「ブーンドル」とは先住民（アボリジニ）の言葉で、原始雨林の植物を意味しています。

1976 年、ブリスベン市長は大規模な運河開発を行うためにブーンドル湿地の土地を購入しましたが、この計画は国際空港の再開発によって保留となりました。

また、1985 年にはブーンドル湿地を埋め立てる新たな都市計画を発表しました。

この計画に反対するための保護団体が結成され、強い反対運動によって計画は中止となり、1990 年にブーンドル湿地の保護が宣言されました。

その後、湿地の保護と管理を目的にブーンドル湿地管理員会が設立され、1992 年にブーンドル湿地管理計画が発表されました。

▼チュウシャクシギ

多くの方々の協力によりブーンドル湿地は保護され、1993（平成 5）年 10 月 22 日にブーンドル湿地を含む「モートン湾」がラムサール条約登録湿地となりました。

ブーンドル湿地では、ウォーキング・サイクリング・釣り・カヌー・ピクニック等を体験することができ、また、9 月～3 月頃の渡り鳥が飛来する時期には多くの方がバードウォッチングを楽しんでいます。

1996（平成 8）年には環境活動を通じたコミュニティの結束および自然ネットワークの拡大を目的に、ブーンドル湿地環境センターが開設されました。

ブーンドル湿地環境センターでは案内展示や環境に関する調査などを行っており、職員やボランティアが来客者の案内を行っています。

2 月 2 日の「世界湿地の日」には、毎年さまざまなイベントを開催しています。

湿地について改めて考える良い機会であり、毎年多くの方で賑わっています。

交流経緯

習志野市とブリスベン市が交流するきっかけとなったのは23年前の1995（平成 7）年に開催された「第 8 回日豪渡り鳥保護会議」です。

日本とオーストラリアには言葉の壁や文化の違いがありましたが、湿地や渡り鳥に対する思いはどちらも同じで、国際的な協力によって湿地の保全や渡り鳥の保護に取り組んできました。

<渡り鳥と湿地>

渡り鳥にはいくつかのフライウェイ（渡りの経路）があり、谷津干潟は**東アジア・オーストラリア地域フライウェイ**に位置しています。

渡り鳥のなかでもシギ・チドリ類と呼ばれる水鳥たちの多くは、**「シベリア・アラスカ地域」を繁殖地**、**「東アジア・オーストラリア・ニュージーランド地域」を越冬地**としており、地球を南北にまたがる範囲で渡っていきます。ブリスベン市の**ブーンドル湿地**もそのひとつで、**越冬地**として多くの渡り鳥が冬を越していきます。

このフライウェイは往復約 2 万ｋｍあり、長旅をする渡り鳥にとって、谷津干潟は**餌の補給や休憩をする重要な湿地**となっています。

それぞれの湿地の活用方法は異なりますが、どの湿地も重要な湿地であることには違いありません。

▼ コサギ

＜ラムサール条約への登録＞

渡り鳥にとって重要な湿地であることから、**「谷津干潟」**は **1993（平成 5）年 6 月 10 日**にラムサール条約登録湿地となりました。

谷津干潟がラムサール条約登録湿地となった約 4 ヶ月後、**同年 10 月 22 日**にブリスベン市のブーンドル湿地を含む**「モートン湾」**が、ラムサール条約登録湿地となりました。

▼オオソリハシシギ

＜湿地交流のきっかけ＞

習志野市とブリスベン市が湿地交流をはじめたきっかけは、1995（平成 7）年 6 月に開催された**「第 8 回日豪渡り鳥保護会議」**において、**オーストラリア政府**が日本の環境省へ湿地交流を提案し、環境省から**習志野市に意向打診**したことからはじまります。

この時すでに、北海道の釧路湿原とオーストラリアのクーラガング湿地が湿地交流を行っていたため、**日本とオーストラリアの湿地交流**は **2 例目**となりました。

＜習志野市の意向＞

環境省から意向打診を受け、習志野市は**「国境を越えて谷津干潟へ飛来する渡り鳥の保護に取り組むためには、国際的な認識と協力が必要」**と判断し、湿地交流をはじめることとしました。

また、交流先にブーンドル湿地を選んだ理由としては、谷津干潟と同年にラムサール条約登録湿地となったこと、市民運動により埋め立てから免れたこと、湿地の保全に市民が参加していることなど、谷津干潟との**共通点が多い**ことから、ブーンドル湿地との交流を提案しました。

▼トウネン

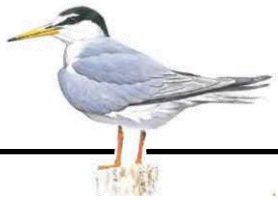
＜湿地提携協定の締結＞

習志野市とブリスベン市は、両市ともに現地を視察し協議を重ねた結果、**1998（平成 10）年 2 月 25 日**に**「湿地に関する協定」の締結**に至りました。

式典はブリスベン市庁舎のバラモラルルームで開催され、さまざまな機関や団体が参列し、盛大に行われました。

▲シロチドリ

▼コアジサシ



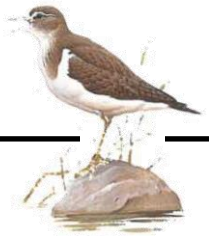
＜湿地交流の内容＞

湿地交流では、以下の**５つを基盤**として交流を図ることとしました。

①湿地の保全と渡り鳥の保護に関する調査および情報交換。
②湿地の保護に関わるスタッフの交換研修支援。
③自然保護の認識と理解を高めるための子供達の交流支援。
④国内外に向けた湿地の保全と渡り鳥の保護に関する啓発。
⑤両市民による交換訪問の支援。

しかし、具体的な活動内容については決まっていなかったため、この湿地提携を円滑に進めていくための**行動計画が策定**されました。

▼イソシギ



＜行動計画＞

1999 年 3 月に**「第 1 次 5 ヵ年計画」**が調印され、以降、**第 2 次・第 3 次**とそれぞれ 5 ヵ年計画を策定し、交流を図ってきました。第 3 次 5 ヵ年行動計画が満期を迎えたことから、2017（平成 29）年 2 月に満期を定めない**「長期実施計画」**の調印がされ、現在も湿地交流を行っています。

訪問交流の記録

習志野市とブリスベン市はこれまで何度も両市間を訪問し、交流を図ってきました。

記載されている役職は訪問当時の役職となります。

※YNOC：谷津干潟自然観察センター（**Y**atsu-higata **N**ature **O**bservation **C**enter）
BWEC：ブーンドル湿地環境センター（**B**oondall **W**etlands **E**nvironment **C**enter）
QWSG：クイーンズランド渉禽類研究会（**Q**ueensland **W**ader **S**tudy **G**roup）

1996 年（平成 8 年）3 月 22 日から 27 日まで

第 6 回ラムサール条約締約国会議（COP6）　出席

▼訪問者 8 名

1	荒木　勇	習志野市長
2	佐藤　正巳	習志野市議会議長
3	安部　博	習志野市議会事務局長
4	大野　耕造	習志野市環境部長
5	長谷川　昭仁	YNOC 所長
6	福島　泉	習志野市職員
7	野中　志朗	習志野市職員
8	東　昭夫	習志野市職員

▼内容
- 第 6 回ラムサール条約締約国会議出席
- 東アジア・オーストラリア地域シギ・チドリ類重要生息地ネットワーク発足セレモニー出席
- 湿地提携の検討に伴うブーンドル湿地視察
- カランビン野鳥保護区視察　等

1996 年（平成 8 年）11 月 13 日から 16 日まで

ブリスベン市副市長が習志野市を訪問

▼訪問者 1 名

1	ジョン・キャンベル	ブリスベン市副市長

<中央：ジョン副市長>

▼内容
- 自治体交流セミナー出席
- 習志野市長および市議会議長表敬訪問
- 東京湾視察
- 谷津干潟を含む市内視察　等

1997 年（平成 9 年）5 月 15 日から 17 日まで

ブリスベン市副市長および職員が習志野市を訪問

▼訪問者 2 名

1	ティム・クイン	ブリスベン市副市長
2	バーナード・グリーン	ブリスベン市職員

<右：ティム副市長>

▼内容
・湿地提携に関する協定について協議
・谷津干潟および谷津干潟自然観察センター視察　等

1997 年（平成 9 年）11 月 5 日から 9 日まで

習志野市職員がブリスベン市を訪問

▼訪問者 2 名

1	安部　博	習志野市環境部長
2	長谷川　昭仁	YNOC 所長

▼内容
- 湿地提携に関する協定について協議
- ブーンドル湿地およびブーンドル湿地環境センター視察
- ナッジビーチおよびナッジビーチ環境教育センター視察　等

1998 年（平成 10 年）2 月 23 日から 27 日まで

習志野市訪問団がブリスベン市を訪問

▼訪問者 21 名

1	荒木　勇	習志野市長
2	保月　美世子	習志野市議会議長
3	帯包　文雄	習志野市議会議員
4	森田　三郎	習志野市議会議員
5	多田　稔	習志野市議会事務局長
6	安部　博	習志野市環境部長
7	東　昭夫	習志野市総務課職員
8	長谷川　昭仁	YNOC 所長
9	富岡　辰先	YNOC 職員（日本野鳥の会千葉県）
10	鈴木　葉子	YNOC 職員
11	松井　淳	YNOC 職員
12	世木沢　君子	YNOC 職員
13	平川　陽三	YNOC 運営懇話会会長
14	中村　容子	YNOC 運営懇話会委員
15	竹田　美智子	YNOC 運営懇話会委員
16	斉藤　由紀	習志野市民
17	小西　優子	習志野市民
18	山崎　奈緒美	習志野市民
19	伊藤　義和	習志野市民
20	木村　瑞穂	習志野市民
21	大浜　清	千葉の干潟を守る会会員

▼カワウ

▼内容
- 湿地提携に関する協定の締結
- ブリスベン市長表敬訪問
- 事業計画についての協議
- ブリスベン市自然保全計画レクチャー　等

1998 年（平成 10 年）2 月 25 日

湿地提携に関する協定　締結

<左：ジム市長　右：荒木市長>

1998 年（平成 10 年）6 月 5 日から 10 日まで

ブリスベン市訪問団が習志野市を訪問

▼訪問者４名

1	マーク・ベイリー	ブリスベン市議会議員
2	アン・ビーズリー	ブーンドル湿地管理員会会長
3	マリ・アン・パティソン	ナッジビーチ環境教育センター校長
4	ジョン・ボーデン	自然環境コンサルタント

▼内容
- 「谷津干潟の日」イベント参加
- 谷津干潟自然観察センターボランティアと交流
- 市民交流バーベキュー参加
- 阿武松部屋および香澄公園の見学　等

1998 年（平成 10 年）7 月 17 日

ブリスベン市副市長および職員が習志野市を訪問

▼訪問者 2 名

1	ティム・クイン	ブリスベン市副市長
2	ジム・リーヴス	ブリスベン市職員

<右：ティム副市長>

▼ウミネコ

▼内容
- 習志野市長および市議会議長表敬訪問
- 谷津干潟自然観察センターボランティアと交流
- 第 1 次 5 ヵ年計画について協議　等

1999 年（平成 11 年）1 月 9 日から 16 日まで

習志野市訪問団がブリスベン市を訪問

▼訪問者 10 名

1	長谷川　昭仁	YNOC 所長
2	井浦　宏司	YNOC 職員
3	澤　滋夫	YNOC 職員
4	阿久津　斉	YNOC ボランティア
5	遠坂　弘	YNOC ボランティア
6	多田　敬一	YNOC ボランティア
7	今村　貞尭	YNOC ボランティア
8	宮村　庸一	YNOC ボランティア
9	伊藤　義和	YNOC ボランティア
10	中野　仁志	YNOC ボランティア

▼オカヨシガモ

▼内容
- ブリスベン市職員、議員、ブーンドル湿地管理運営委員会、NGO グループと協議
- ナッジビーチ環境教育センターにてカービング教室開催
- 第 1 次 5 ヵ年計画について協議
- ブーンドル湿地にてマングローブ保全作業　等

1999 年（平成 11 年）3 月 4 日

第 1 次 5 ヵ年行動計画　調印

2000 年（平成 12 年）1 月 8 日から 15 日まで

習志野市訪問団がブリスベン市を訪問

▼訪問者 8 名

1	長谷川　昭仁	YNOC 所長
2	志知　友美	YNOC ボランティア
3	阿久津　斉	YNOC ボランティア
4	伊藤　義和	YNOC ボランティア
5	今村　貞尭	YNOC ボランティア
6	中野　仁志	YNOC ボランティア
7	阿久津　光子	YNOC ボランティア
8	有田　和子	YNOC ボランティア

▼内容
- ナッジビーチ環境教育センターにてカービング教室開催
- ブーンドル湿地保全作業参加（110 本植樹）
- ナッジビーチ環境教育センターの職員宅を訪問
- ブリスベン市庁舎見学　等

2000 年（平成 12 年）6 月 9 日から 12 日まで

ブリスベン市訪問団が習志野市を訪問

▼訪問者４名

1	ダグ・ユイル	ブリスベン市職員
2	アイビル・ホワイト	クイーンズランド自然保護協会会員
3	ディズモンド・サンディ	ユゲラ事業文化協会職員
4	ダグ・ワトキンス	東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ事務局職員

▼キョウジョシギ

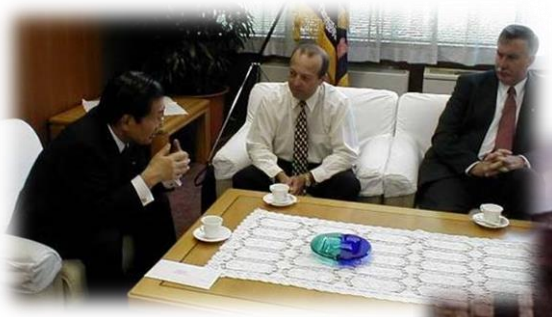
▼内容
- 「谷津干潟の日」イベント参加
- 谷津南小学校訪問
- 「子供水鳥情報ネットワーク」発足セレモニー参加　等

2001 年（平成 13 年）6 月 7 日から 13 日まで

ブリスベン市訪問団が習志野市を訪問

▼訪問者 3 名

1	キム・フレッサー	ブリスベン市議会議員
2	ジム・マクドネル	ブリスベン市職員
3	ローリー・ジェイズ	サンドゲート美化協会会長



▼ハシビロガモ

▼内容
- 「谷津干潟の日」イベント参加
- 香澄公園見学
- 谷津南小学校訪問
- 「子供水鳥情報ネットワーク」について協議　等

2001 年（平成 13 年）9 月 28 日から 10 月 3 日まで

習志野市訪問団がブリスベン市を訪問

▼訪問者 10 名

1	阿久津　斉	YNOC ボランティア
2	今村　貞尭	YNOC ボランティア
3	仙洞田　博	YNOC ボランティア
4	宮村　庸一	YNOC ボランティア
5	日向　洋美	YNOC ボランティア
6	田中　寛	YNOC ボランティア
7	木村　順子	YNOC ボランティア
8	和田　トミ江	YNOC ボランティア
9	渡辺　信子	YNOC ボランティア
10	山田　静子	YNOC ボランティア

▼内容
- クイーンズランド渉禽類研究会にカービング教室開催
- ブリスベン市庁舎見学
- メルシー老人ホームで折り紙教室開催
- ナッジビーチにて底生生物調査参加
- アン･ビーズリーの丘にて献花
- シティキャットにて川下り　等

2002 年（平成 14 年）6 月 8 日から 10 日まで

ブリスベン市議会議員および学生が習志野市を訪問

▼訪問者２名

1	ヴィクトリア・ニュートン	ブリスベン市議会議員
2	ディーン・マクレナン	ブリスベン市民（学生）

▼内容
- 教育交流覚書（試行）調印
- 谷津南小学校訪問
- 「谷津干潟の日」イベント参加
- 谷津干潟自然観察センターボランティアと交流

2002 年（平成 14 年）11 月 8 日から 14 日まで

習志野市訪問団がブリスベン市を訪問

▼訪問者 10 名

1	志村　英雄	日本野鳥の会千葉県会長
2	阿久津　斉	日本野鳥の会千葉県会員
3	一番が瀬　国彦	日本野鳥の会千葉県会員
4	稲葉　仁	日本野鳥の会千葉県会員
5	勝亦　毅	日本野鳥の会千葉県会員
6	町田　昇	日本野鳥の会千葉県会員
7	吉田　明子	日本野鳥の会千葉県会員
8	慶田　昌子	日本野鳥の会千葉県会員
9	片岡　真智子	日本野鳥の会千葉県会員
10	中川　恵子	日本野鳥の会千葉県会員

▼内容
- ブリスベン市長表敬訪問
- ブリスベン市庁舎見学
- ナッジビーチ環境教育センター見学
- クイーンズランド渉禽類研究会によるバンディング作業見学
- マンリーボートハーバーにてシギ・チドリ類の人工ねぐら見学　等

2003 年（平成 15 年）6 月 5 日から 9 日まで

ブリスベン市議会議員および職員が習志野市を訪問

▼訪問者 3 名

1	キム・フレッサー	ブリスベン市議会議員
2	ラッセル・ルー	ブリスベン市環境部長
3	ナタリー・マーチン	BWEC 職員

▼内容
- 市内施設見学
- 「谷津干潟の日」イベント参加
- 谷津南小学校訪問
- 第 2 次 5 ヵ年計画の策定に係る協議
- 習志野市長、教育長、市議会議長表敬訪問　等

2003 年（平成 15 年）10 月 19 日から 23 日まで

習志野市訪問団がブリスベン市を訪問

▼訪問者 17 名

1	荒木　勇	習志野市長
2	鈴木　正志	習志野市議会議長
3	豊島　英夫	谷津南小学校長
4	長谷川　昭仁	習志野市環境部副技監
5	鵜沢　滋彦	習志野市職員
6	海老原　幸作	YNOC 所長
7	澤　滋夫	YNOC 職員
8	松濱　幸子	YNOC 職員
9	青山　莞爾	谷津干潟運営懇話会会長
10	安川　浩	谷津干潟運営懇話会委員
11	直塚　基	YNOC ボランティア
12	直塚　ひろみ	YNOC ボランティア
13	長谷川　睦子	YNOC ボランティア
14	金井　悦子	YNOC ボランティア
15	山岸　和郎	習志野市民
16	下藤　美子	習志野市民
17	広川　ヨシ子	漫湖水鳥湿地センター職員

▼内容
- アジア太平洋都市サミット参加
- 第 2 次 5 ヵ年計画調印
- 教育交流覚書調印
- アーンショウ校訪問
- ローマ通り公園見学　等

2003 年（平成 15 年）10 月 22 日

第 2 次 5 カ年行動計画　調印

<左：ティム市長　中央：アンナ議員（教育相）　右：荒木市長>

2004 年（平成 16 年）6 月 1 日から 7 日まで

ブリスベン市訪問団が習志野市を訪問

▼訪問者 5 名

1	ジュラルディン・ナップ	ブリスベン市議会議員
2	ヴィクトリア・ニュートン	ブリスベン市議会議員
3	マリ・アン・パティソン	ナッジビーチ環境教育センター校長
4	ラッセル・ルー	ブリスベン市環境部長
5	ノーマ・クラーク	BWEC ボランティア

▼内容
- 市制施行 50 周年記念「谷津干潟の日」イベント参加
- 習志野高校訪問
- 谷津南小学校訪問
- クリーンセンター視察
- 富士吉田の家視察　等

2004 年（平成 16 年）10 月 1 日から 6 日まで

習志野市訪問団がブリスベン市を訪問

▼訪問者 12 名

1	阿久津　斉	YNOC ボランティア
2	宮村　庸一	YNOC ボランティア
3	宮村　美知子	YNOC ボランティア
4	今村　貞尭	YNOC ボランティア
5	畑中　浩一	YNOC ボランティア
6	渡辺　こと子	YNOC ボランティア
7	松本　武美	YNOC ボランティア
8	仙洞田　博	YNOC ボランティア
9	仙洞田　洋子	YNOC ボランティア
10	大橋　晃	YNOC ボランティア
11	山本　修身	YNOC ボランティア
12	山本　初恵	YNOC ボランティア

▼内容
- ブリスベン市長表敬訪問
- スプーンビル号でボートクルーズ
- クイーンズランド渉禽類研究会と交流
- ブーンドル湿地環境センターにて折り紙教室開催
- ブーンドル湿地にて植樹　等

2005 年（平成 17 年）5 月 16 日から 17 日まで

ブリスベン市副市長および職員が習志野市を訪問

▼訪問者 2 名

1	デイビット・ヒンチリフ	ブリスベン市副市長
2	ニコール・スカラ	ブリスベン市職員

<左：デイビット副市長>

▼内容
- 習志野市長表敬訪問
- 谷津バラ園見学
- 谷津南小学校訪問
- 「習志野市のバラ」贈呈について協議　等

2005 年（平成 17 年）10 月 14 日から 18 日まで

習志野市訪問団がブリスベン市を訪問

▼訪問者 14 名

1	志村　英雄	日本野鳥の会千葉県会長
2	阿久津　斉	日本野鳥の会千葉県会員
3	今村　貞尭	日本野鳥の会千葉県会員
4	畑中　浩一	日本野鳥の会千葉県会員
5	勝亦　毅	日本野鳥の会千葉県会員
6	松川　裕	日本野鳥の会千葉県会員
7	慶田　浩一	日本野鳥の会千葉県会員
8	慶田　昌子	日本野鳥の会千葉県会員
9	吉田　明子	日本野鳥の会千葉県会員
10	片岡　真智子	日本野鳥の会千葉県会員
11	中川　恵子	日本野鳥の会千葉県会員
12	中野　達也	日本野鳥の会千葉県会員
13	髙橋　モリ子	日本野鳥の会千葉県会員
14	稲葉　仁	日本野鳥の会千葉県会員

▼内容
- クイーンズランド渉禽類研究会とワークショップ開催
- ダウンフォールクリークブッシュランドセンター見学
- ナッジビーチ環境教育センターにて授業参観および交流
- ブリスベン港人口干潟見学　等

2006 年（平成 18 年）2 月 3 日から 8 日まで

習志野市職員および YNOC 職員がブリスベン市を訪問

▼訪問者 7 名

1	長谷川　昭仁	習志野市環境部次長
2	井浦　宏司	習志野市職員
3	多田　弘一	習志野市職員
4	村山　貴弘	習志野市職員
5	越川　智子	習志野市職員
6	長安　誠	習志野市教育委員会職員
7	櫻井　七奈	YNOC 職員

▼内容
- 習志野市のバラ贈呈
- 「世界湿地の日」イベント参加
- ブリスベン市環境部と湿地交流について協議
- ナッジビーチ環境教育センター訪問

2006 年（平成 18 年）6 月 8 日から 12 日まで

ブリスベン市訪問団が習志野市を訪問

▼訪問者 3 名

1	ヘレン・アブラハム	ブリスベン市議会議員
2	ユリ・ソーマ	QWSG 会員
3	アシーナ・ムーア	クイーンズランド州政府 東京事務所職員

▼内容
- 「谷津干潟の日」イベント参加
- 谷津南小学校訪問
- 谷津バラ園見学　等

2008 年（平成 20 年）2 月 1 日から 6 日まで

習志野市訪問団がブリスベン市を訪問

▼訪問者 9 名

1	長谷川　昭仁	習志野市環境部長
2	島田　義夫	YNOC 所長
3	阿久津　斉	YNOC ボランティア
4	畑中　浩一	YNOC ボランティア
5	宮村　庸一	YNOC ボランティア
6	松川　裕	YNOC ボランティア
7	三谷　茂則	YNOC ボランティア
8	渋谷　晟司	YNOC ボランティア
9	永田　桂子	YNOC ボランティア

▼内容
- 「世界湿地の日」イベントにて講演、紙芝居上映、バードブローチ作成教室開催
- ブリスベン市庁舎見学
- ストラッドブロック島見学
- クイーンズランド渉禽類研究会とシギ・チドリ類標識付け作業
- ナッジビーチ環境教育センター訪問　等

2009 年（平成 21 年）2 月 7 日から 11 日まで

習志野市職員およびボランティアがブリスベン市を訪問

▼訪問者 5 名

1	植松　榮人	習志野市教育長
2	井上　隆夫	習志野市袖ヶ浦東小学校長
3	野中　志朗	習志野市環境政策課長
4	三橋　隆広	習志野市職員
5	阿久津　斉	YNOC ボランティア

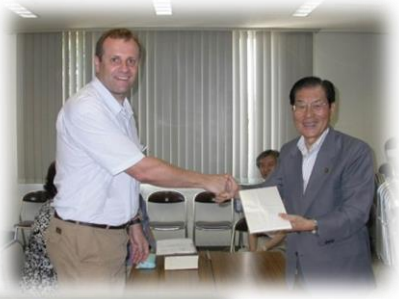
▼内容
- 湿地交流 10 周年記念展参加
- 第 3 次 5 ヵ年行動計画について協議
- ウォーターホール視察
- アーンショウ校訪問
- 教育交流覚書について協議　等

2009 年（平成 21 年）5 月 30 日から 6 月 9 日まで

ブリスベン市訪問団が習志野市を訪問

▼訪問者 2 名

1	アンドリュー・ギアリング	QWSG 会長
2	ジェニファー・シンフィールド	ブーンドル湿地管理員会委員



▼内容
- 「谷津干潟の日」イベント参加
- 「衛星通信利用によるキアシシギ飛行ルートの追跡」について協議
- 香澄公園見学
- 習志野市長表敬訪問

2009 年（平成 21 年）7 月 31 日

第 3 次 5 カ年行動計画　調印

※第 3 次 5 カ年行動計画は郵送にて調印。

２００９年－２０１４年

千葉県習志野市とオーストラリア・クイーンズランド州ブリズベン市の
谷津干潟およびブーンドル・ウエットランド湿地提携に関する協定
第３次５ヶ年行動計画

経緯

湿地は、そこに棲む生物の多様性や生産性のゆえに、地球上において最も尊重されるべき自然のひとつである。人類は、湿地の果たす様々な機能が人類社会にとって重要であることを理解しつつも、世界中の多くの地域で湿地の喪失・破壊・質の低下につながる誤った利用を続けている。
湿地に対する大規模な影響にかんがみ、両市の市民参加を通して湿地の保全と渡り性シギ・チドリの保護を行うため、１９９８年２月２５日に湿地提携に関する協定書が締結された。協定書は第１次、第２次行動計画書により裏付けされ、行動計画は成功裏に実施された。

ブリズベン及び習志野両市の代表は第３次５ヶ年計画の作成に合意した。湿地の保全と渡り性シギ・チドリの保護に関する両市及び両市民の高まる関心と気づきにより、新たな行動計画の戦略を加え設定した。

2010 年（平成 22 年）5 月 31 日から 6 月 9 日まで

ブリスベン市訪問団が習志野市を訪問

▼訪問者 3 名

1	デイビッド・フィッツギボン	ブリスベン市職員
2	デイビッド・ミルトン	QWSG 会長
3	ジェニファー・シンフィールド	ブーンドル湿地管理員会委員

▼ヒドリガモ

▼内容
- 「谷津干潟の日」イベント参加
- 「衛星通信利用によるキアシシギ飛行ルートの追跡」について協議
- バンディング調査参加　等

2011 年（平成 23 年）2 月 23 日から 3 月 2 日まで

習志野市訪問団がブリスベン市を訪問

▼訪問者 8 名

1	阿久津　斉	YNOC ボランティア
2	高野　満里子	YNOC ボランティア
3	馬渡　和華	YNOC ボランティア
4	川野　昌子	YNOC ボランティア
5	安部　博	YNOC ボランティア
6	安部　則子	YNOC ボランティア
7	長谷川　昭仁	YNOC ボランティア
8	長谷川　敬子	YNOC ボランティア

▼内容
- ブリスベン市長表敬訪問
- 「世界湿地の日」イベント参加
- ナッジビーチ環境教育センターにて授業体験
- バードペンディング特別教室開催
- ブリスベン港、ミサゴハウス見学　等

2012 年（平成 24 年）8 月 16 日から 21 日まで

ブリスベン市訪問団が習志野市を訪問

▼訪問者 6 名

1	デイビッド・フィッツギボン	ブリスベン市職員
2	リサ・ジョンストン	BWEC 職員
3	ジェシンタ・ハミルトン	BWEC 職員
4	フェリシティ・ムーア	BWEC 職員
5	ジョン・コールマン	QWSG 会長
6	マーティン・ライアン	BWEC ボランティア

▼内容
- 習志野市長表敬訪問
- 長期行動計画について協議
- 谷津干潟自然観察センター見学
- 「谷津干潟&ブーンドル湿地　ミニフェスティバル」参加
- ボランティア交流　等

2013 年（平成 25 年）10 月 23 日から 30 日まで

習志野市訪問団がブリスベン市を訪問

▼訪問者 9 名

1	長谷川　昭仁	YNOC ボランティア
2	阿久津　斉	YNOC ボランティア
3	内田　俊行	YNOC ボランティア
4	日野　陽子	YNOC ボランティア
5	日野　晶子	YNOC ボランティア
6	石田　徹	YNOC ボランティア
7	元田　泰三	YNOC ボランティア
8	藤田　祐樹	YNOC ボランティア
9	伊藤　陸渡	YNOC ジュニアレンジャー

▼内容
- モートン湾（ブーンドル湿地）ラムサール条約登録 20 周年記念イベント参加
- ダウンフォールクリークブッシュランドセンター訪問
- ナッジビーチ環境教育センター訪問
- 鳥のブローチ作り教室開催
- ブリスベン市庁舎見学　等

2015 年（平成 27 年）5 月 23 日から 26 日まで

ブリスベン市訪問団が習志野市を訪問

▼訪問者 3 名

1	デイビッド・フィッツギボン	ブリスベン市職員
2	リンダ・クロス	QWSG 会員
3	フィル・クロス	QWSG 会員

▼内容
- 習志野市長表敬訪問
- 千葉県立幕張海浜公園、葛西海浜公園にてバードウォッチング
- 谷津干潟自然観察センターにて講演会開催
- 長期実施計画について協議
- 谷津南小学校訪問
- 谷津干潟ジュニアレンジャーと交流　等

2016 年（平成 28 年）10 月 21 日から 24 日まで

習志野市訪問団がブリスベン市を訪問

▼訪問者 7 名

1	吉田　有希	YNOC 所長
2	星野　七奈	YNOC 職員
3	宇井　文代	YNOC ボランティア
4	阿久津　光子	YNOC ボランティア
5	椎名　みづほ	YNOC ボランティア
6	及川　えみ	YNOC ボランティア
7	及川　樹也	YNOC ジュニアレンジャー

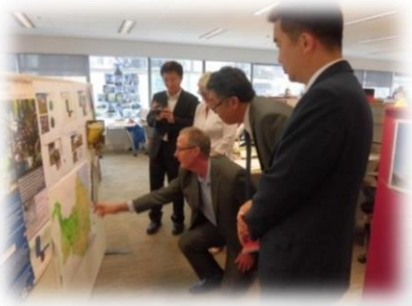
▼内容
- ブーンドル湿地環境センター設立 20 周年記念イベント参加
- ナッジビーチ環境教育センターにて授業体験
- カラワサ森林ディスカバリーセンター見学
- トゥーブル海岸、カカドゥビーチにてバードウォッチング　等

2017 年（平成 29 年）2 月 11 日から 14 日まで

習志野市長および職員がブリスベン市を訪問

▼訪問者 3 名

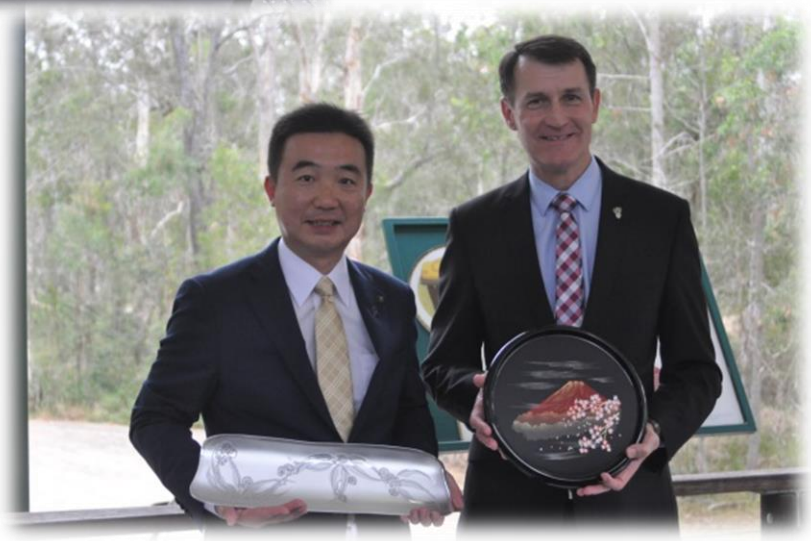
1	宮本　泰介	習志野市長
2	相澤　慶一	習志野市環境政策課長
3	鈴木　希	習志野市職員



▼内容
- 長期実施計画調印
- ブリスベン市環境部訪問
- ブリスベン市庁舎視察
- シティキャット試乗
- マウントクーサ見学
- 在クイーンズランド日本総領事館訪問　等

2017 年（平成 29 年）2 月 13 日

長期実施計画　調印



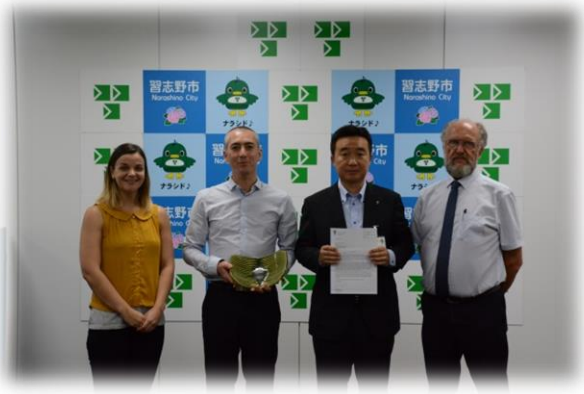
<左：宮本市長　右：グレアム市長>

2017 年（平成 29 年）9 月 9 日から 11 日まで

ブリスベン市訪問団が習志野市を訪問

▼訪問者 3 名

1	デイビッド・フィッツギボン	ブリスベン市職員
2	ジェマ・ハウズ	BWEC 職員
3	デイビッド・エドワーズ	QWSG 会長



▼内容
- 習志野市長表敬訪問
- 習志野市クリーンセンター見学
- オオヨシキリ営巣調査参加
- ブリスベン市＆習志野市湿地交流会（講演会）開催
- 谷津南小学校訪問
- 東京湾一斉シギ・チドリカウント参加
- 葛西海浜公園、三番瀬にてバードウォッチング　等

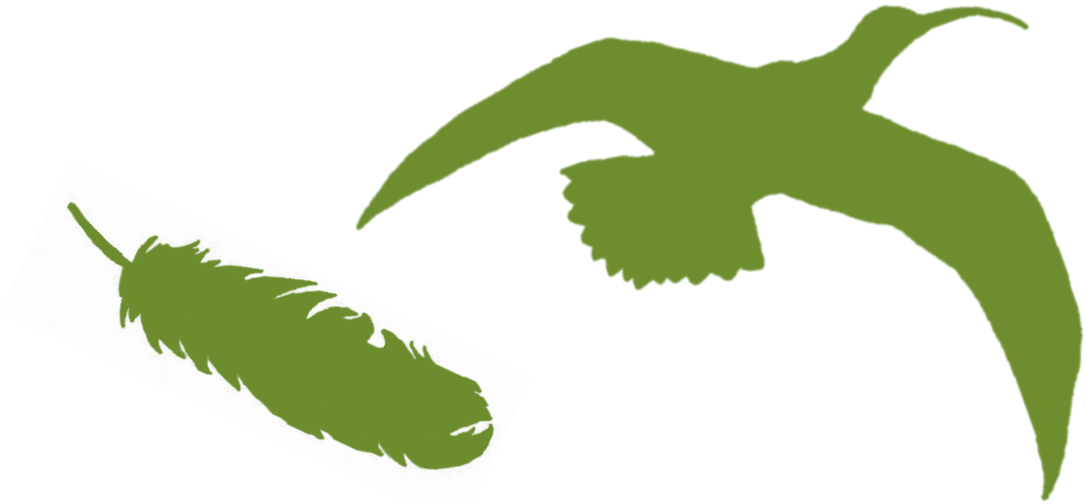
将来に向けて

この 20 年間を振り返ると、習志野市とブリスベン市がとても充実した交流を行ってきたことがよく分かります。

湿地交流では資料提供や情報交換だけでなく、訪問を通じて人と人が直接会い、交流を深めてきました。

実際に現地を訪問すると、写真やインターネットでは伝わらないものがたくさんあり、文化や言語、天候や環境など、日本とオーストラリアではそれぞれが大きく異なります。

わたしたちはそれらの壁を越え、湿地交流 20 周年を迎えました。



しかし、20 周年がゴールではなく、湿地交流はこれからも続いていきます。

これまで行ってきた湿地交流を後世に引き継ぎ、今後、幅広い世代が関われる交流を行っていくことが私たちの課題と言えます。

谷津干潟とブーンドル湿地をより良いかたちで後世に残していくためには、渡り鳥の保護や湿地の保全だけでなく、湿地が存在する意義や過程、湿地が私たち人間に与えてくれる恵みなどを理解することも必要です。

習志野市とブリスベン市は、今後も湿地交流を通して多くのことを学び合い、将来のワイズユースに繋がるよう努めていきます。

Anne Beasley's Lookout
In memory of Mrs Anne Beasley
of Nudgee Beach
Protector of the environment
and Boondall Wetlands
Sadly passed away 9th December 2000
Brisbane City Council

湿地提携協定書・行動計画書

習志野市とブリスベン市は、1998（平成 10）年 2 月 25 日に湿地提携協定を締結し、その後、交流の内容を具体化するため行動計画を策定しました。現在は「長期実施計画」のもと、交流を図っています。

【湿地提携協定】

締結日：1998（平成 10）年 2 月 25 日
名　称：千葉県習志野市、日本およびクィーンズランド州ブリズベン市、オーストラリア　両市に於ける谷津干潟およびブーンドル・ウエットランド湿地提携に関する協定

【行動計画】

調印日：1999（平成 11）年 3 月 4 日
名　称：習志野市とブリズベン市の湿地提携に関する第 1 次 5 ヵ年計画

調印日：2003（平成 15）年 10 月 22 日
名　称：千葉県習志野市、日本およびクイーンズランド州ブリズベン市、オーストラリア両市における、谷津干潟およびブーンドルウエットランド湿地提携にかんする協定書のための第 2 次 5 ヵ年計画

調印日：2009（平成 21）年 7 月 31 日
名　称：千葉県習志野市とオーストラリア・クイーンズランド州ブリズベン市の谷津干潟およびブーンドル・ウエットランド湿地提携に関する協定　第 3 次 5 ヶ年行動計画

調印日：2017（平成 29）年 2 月 13 日
名　称：日本国千葉県習志野市およびオーストラリア連邦クイン―ズランド州ブリスベン市における谷津干潟ならびにブーンドル湿地提携協定書　長期実施計画

NOW

千葉県習志野市、日本

および

クィーンズランド州ブリズベン市、オーストラリア

両市に於ける

谷津干潟およびブーンドル・ウエットランド

湿地提携に関する協定

1998年2月25日

湿地は、そこに棲む生物の多様性や生産性のゆえに、地球上において最も尊重されるべき自然のひとつである。人類は、湿地の果たす様々な機能が人間社会にとって重要であることを理解しつつも、世界中の多くの地域で湿地の喪失・破壊・質の低下につながる誤った利用を続けている。

人間社会が湿地に及ぼす影響が増大している中で、湿地の繊細で壊れやすい環境を維持し、健康な湿地を地球規模で取り戻し、後世に引き継いでいくために、行政と地域の人々を中心に湿地の保全を推進していくことが不可欠となっている。

1996年3月に開催されたラムサール条約締約国会議（ブリズベン会議）において承認された東アジアからオーストラリア地域・シギ・チドリ類湿地保全ネットワークは、湿地と渡り鳥の保護において各国の湿地間協力の必要性を示唆している。また、同会議で採択された勧告6.3は湿地の保全を行う上で「地域の人々の参加をいかにすべきか」を求めている。

国際的に重要な湿地であるラムサール条約登録湿地及び東アジアからオーストラリア地域・シギ・チドリ類湿地保全ネットワーク参加地を擁する、オーストラリア国クィーンズランド州ブリズベン市と日本国千葉県習志野市は、自ら湿地の保全と、水鳥の保護に努めるとともに、湿地保全と水鳥の保護が地域の人々の参加のもとに行われることの必要性を認識し、加えてこれらの事業が両市間で行われることの意義を深く理解した。

そこで、湿地及び湿地に依存する渡り鳥（シギ・チドリ類）の保護の重要性を深く認識し、習志野市とブリズベン市は、以下の事に合意した。

1. 湿地の保全と渡り鳥（シギ・チドリ類）の保護を目的とした、湿地間の調査及び情報の交換。
2. 両湿地の保護に携わるスタッフの交換及び研修の支援。
3. 子供達の自然保護の大切さに対する認識と理解を高める事を目的とした、子供達の交流の支援。
4. 湿地の保全と渡り鳥の保護を目的とした、国内外に向けた啓発事業の展開。
5. 両市に於ける、それぞれの地域の人々による交換訪問の支援。

上記の活動は、相互利益の精神に基づくものとする。

上記の事柄は、1998年2月25日（水曜日）ブリズベン市に於いて、両市市長による署名により提携同意が樹立された。

荒木勇

荒木　勇
習志野市市長

James Soorley

ジェームス・ソーリー
ブリズベン市市長

習志野市とブリズベン市の
湿地提携に関する
第１次５カ年計画
１９９９～２００４

１９９９年３月４日

湿地は、そこに棲む生物の多様性や生産性ゆえに、地球上において最も尊重されるべき自然の一つである。人類は、湿地の果たす様々な機能が人間社会にとって重要であることを理解しつつも、世界中の多くの地域で湿地の喪失・破壊・質の低下につながる誤った利用を続けている。

人間社会が湿地に及ぼす影響が増大している中で、ブリズベン市と習志野市は、両市に存在する湿地の保全と渡り鳥の保護を、両市の協力と両市民の参加のもとに実施するため、１９９８年２月２５日湿地提携を締結した。

この両市間における湿地提携が、両市及び両市民による具体的な関わり及び認識を持つことができるものとして、また、その成果が湿地の保全と渡り鳥の保護に役立つものとなるよう、以下の目標、目的および行動計画を策定した。

１．目標

繊細で壊れやすい湿地環境を地球規模で取り戻し、後世にわたって、渡り鳥及び人間社会に恩恵がもたらされるよう、両市は市民と協力して湿地保全活動を推進する。

２　目的

東アジアからオーストラリア地域・シギ・チドリ類湿地保全ネットワーク内の湿地を以下により保全する。

A．国際的に重要な湿地条約（ラムサール条約）を支持する。

B．東アジアからオーストラリア地域・シギ・チドリ類湿地保全ネットワーク内で、ブリズベン市と習志野市における湿地提携関係と同様な双子的な関係が、日本及びオーストラリアの他の自治体間にも実現するよう協力し、かつ働きかけをおこなう。

- 1 -

C．東アジアからオーストラリア地域・シギ・チドリ類湿地保全ネットワーク内で、湿地保全の推進を目的とするブリズベン市、習志野市及び市民の活動を支援する。

D．ブリズベン市及び習志野市は、湿地提携に関する協定が湿地保全の推進に影響を与えるよう務める。

3．行動計画

1）国際協力の意識を高めるため、両市の湿地の保全と渡り鳥の保護を目的とした、湿地間の調査及び情報の交換を支援する。

A．ブリズベン市長及び習志野市長は、相手方市長及び市民と公開書簡を交換し、本5カ年計画に基づく成果についての情報を伝え合う。

（実施時期：通年　開始時期：１９９９年６月）

B．シギ・チドリ類の調査及び情報の交換を支援する。（実施時期：通年）

a）シギ・チドリ類の飛来調査及びデータ交換

b）標識鳥の調査及びデータ交換

c）市民による調査研究の支援

d）両湿地で行われる調査の支援

C．相互の湿地情報の交換（実施時期：通年）

a）両国語による湿地の紹介ビデオ作成と交換（ブーンドル湿地ホームページの日本語への翻訳等）

b）湿地保全に携わる個人・団体の名簿の交換

（実施時期：１９９９年３月）

c）湿地保全に関する重要な資料の翻訳

d）日本語及び英語による両湿地の情報の提供

2）湿地保全に係る知識の習得と環境教育の充実を目的とした両湿地の保護に携わるスタッフの交換及び相互研修を支援する。

A．ブリズベン市及び習志野市の湿地政策及び計画に携わる職員が、その事業及び経験を共有する機会を持つよう努める。（実施時期：通年）

3）教育プログラムを通して、自然に対する豊かな感受性、グローバルな視野に立った環境への関心、環境に積極的に働きかける能力や行動の育成を図り、湿地保全に対する認識と理解を高める事を目的とした子供達の交流を支援する。

A．小・中・高校で日本語・英語教育に関する共同事業を開発し、学生の交流を促進する。（実施時期：通年）

B．小学生間で行われる湿地保全活動を育成する。（実施時期：通年）

C．子供たちのラムサール条約についての理解と協力を深める。
（実施時期：通年）

4）両市間の協力関係を国際的に拡大するため、湿地の保全と渡り鳥の保護を目的とした、国内外に向けた啓発事業の展開を支援する。

A．両湿地を市民に紹介するため、谷津干潟自然観察センター及びブーンドン湿地ビジターセンターに展示コーナーを設置する。
（実施時期：１９９９年末）

B．湿地提携と湿地保全の推進のため、「谷津干潟の日」及び「ブリズベン・リバーフェスティバル」の一部として、渡り鳥についての環境文化事業を２０００年に開催することを検討する。（実施時期：２０００年）

C．湿地提携及び５カ年計画を、国内外に公表する。（実施時期：通年）

D．２００４年（第１次５カ年計画の終わり）に、共同で報告書をまとめ、ラムサール事務局に提出する。（実施時期：２００４年）

E．フライウエイネットワークにある自治体同士が、特別な湿地協定を結ぶことを奨励し、協力する。

5）市民の湿地保全と渡り鳥の保護に係る国際的意識を高めるため、協力の場を設け、それぞれの地域の人々による交換訪問を支援する。

A．市民の自主的な交流を支援する。（実施時期：通年）

B．ホームステイ・プログラムを通して、両市民の交換訪問を奨励する。
（実施時期：通年）

本計画は、両市の市民間の相互協力の精神に基づき、合意されたものである。

湿地提携に関する５カ年計画の市民の支持を確認し、１９９９年３月４日、両市長は、ここに証として署名する。

ジェームス・ソーリー
ブリズベン市長

荒木勇
荒　木　　勇
習志野市長

- 3 -

千葉県習志野市、日本および
クイーンズランド州ブリズベン市、オーストラリア
両市における、谷津干潟およびブーンドルウホットランド
湿地提携にかんする協定書のための第２次５ヵ年計画

湿地は、そこに接心生物の多様性や生産性のゆえに、地球上において最も尊重されるべき自然のひとつである。人類は、湿地の果たす様々な機能が人間社会にとって重要であることを理解しつつも、世界中の多くの地域で湿地の喪失・破壊・質の低下につながる限った利用を続けている。
湿地に対する大規模な影響にかんがみ、両市の市民参加を通して湿地の保全とシギ・チドリ類の保護を行うため、１９９８年２月２５日に湿地提携協定書が締結された。協定書は第１次実行計画書により裏付けされ、その実行計画は成功裏に実施された。

ブリズベンおよび習志野両市の代表は第２次５ヵ年計画の作成に合意した。湿地の保全とシギ・チドリ類の保護に関する両市および両市民の高まる関心と気づきにより、実行計画の戦略を改定のうえ設定した。

第２次５ヵ年計画の主たる命題は、

後世に引継いで、シギ・チドリ類の保護と環境の保全をおこなうため、繊細かつ壊れやすい地球湿地環境が維持されるよう、内外の湿地保全活動を促進・支援することである。

基本戦略は以下の実現を図ることを目標としている。
- 国際的に重要な湿地協定（ラムサール条約）の支援
- 東アジア・オーストラリア地域シギ・チドリ類重要生息地ネットワークに合わせた湿地保全活動の支援および実施

調印により、双方は以下の支援を確認する。
- 湿地の保全とシギ・チドリ類の保護を目的とした、湿地間の合同調査および情報の交換
- 湿地保全関係者の環境教育強化と知識・技能向上のための研修
- 湿地保全への気づきおよび理解をたかめ、自然に対する感性、環境への関心および環境の段階的改善能力を拡大するための子供たちによる情報の交換
- 両市のシギ・チドリ類の保護および湿地の保全を目的とした国内外に向けた教育計画の展開
- 協力的パートナーシップを確立し、湿地の保全およびシギ・チドリ類の保護の国際的啓発を強化するための市民の交換訪問

湿地協定のための本第２次５ヵ年計画はブリズベン・習志野の両市民間の相互協力の精神に基づいて合意され、両市長はその証としてここに署名する。

荒木勇
習志野市　市長

ティム・クイン
ブリズベン市　市長

22/10/03
調印日

２００９年－２０１４年

千葉県習志野市とオーストラリア・クイーンズランド州ブリズベン市の
谷津干潟およびブーンドル・ウエットランド湿地提携に関する協定
第３次５ヶ年行動計画

経緯

湿地は、そこに棲む生物の多様性や生産性のゆえに、地球上において最も尊重されるべき自然のひとつである。人類は、湿地の果たす様々な機能が人間社会にとって重要であることを理解しつつも、世界中の多くの地域で湿地の喪失・破壊・質の低下につながる誤った利用を続けている。

湿地に対する大規模な影響にかんがみ、両市の市民参加を通して湿地の保全と渡り性シギ・チドリの保護を行うため、１９９８年２月２５日に湿地提携に関する協定書が締結された。協定書は第１次、第２次行動計画書により導付けされ、行動計画は成功裏に実施された。

ブリズベン及び習志野両市の代表は第３次５ヶ年計画の作成に合意した。湿地の保全と渡り性シギ・チドリの保護に関する両市及び両市民の高まる関心と気づきにより、新たな行動計画の戦略を加え設定した。

戦略と行動計画

戦略１

「環境を意識した行動を奨励し、渡り性シギ・チドリと湿地の認識および気づきを高める。」

行動計画

1　センターの活動とプログラムを通して環境教育を支援する。

2　渡り性シギ・チドリと湿地を保護するための理解及び積極的な取り組みを支援するためにセンターは地域の学校との交流をはかり、情報、話題を共有する。

3　ラムサール条約とその目的を理解する。

4　ブリズベン市と習志野市は湿地の保全意識と渡り鳥の保護意識を高めて、湿地提携に関する協定を履行するために年一回のイベントを行う。

各々のイベントは
- 湿地提携に関する協定に基づく行事であること
- 湿地提携に関する協定及び、現在の活動を促進する展示であること
- 友好関係において参加者を引きつける活動であること
- 展示用に、それぞれのセンターへイベントの展示物を送ること

5　東アジア・オーストラリア地域フライウェイの湿地を擁する両市は、情報を共有し、他のリンク等からの要求に対し、資金を協力して支援する。

6　ブーンドル湿地環境センターと谷津干潟自然観察センターにおいて、渡り性シギ・チドリや湿地に特有の展示物を作製、維持、更新する。そして、それにそれぞれの市のセンターや施設において展示するよう推進する。

展示物とは

- ブーンドル湿地と谷津干潟間の湿地提携の紹介
- ブーンドル湿地と谷津干潟の水鳥の紹介
- 東アジア・オーストラリア地域フライウェイの紹介

7　ブーンドル湿地環境センターと谷津干潟自然観察センターのスタッフとボランティアの教育を次のような点で支援する。

- 環境教育
- 湿地保全
- 渡り性シギ・チドリの識別と保護
- 文化の認識（気づき）
- 地域とのつながり

戦略2

「ブーンドル湿地と谷津干潟の湿地の保全と渡り性シギ・チドリの保護に関わる情報の交換を支援する。」

行動計画

1　次のようなトピックスにおける関連研究、情報、方策を交換する。

- 渡り性シギ・チドリ
- 湿地
- ブーンドル湿地と谷津干潟における動植物
- 生息地の回復、植生管理
- 環境保全プログラム
- 人の関わり
- 環境教育の方法
- ブーンドル湿地環境センターと谷津干潟自然観察センターのスタッフとボランティアの教育プログラムとマニュアルの交換
- 定期刊行誌

2　渡り性シギ・チドリと湿地保全にかかるプロジェクトと経験を共有する機会を検討、支援する。

3　ブーンドル湿地環境センターと谷津干潟自然観察センター間でテレビ会議の実現性を検討する。

戦略3

「渡り性シギ・チドリと湿地の保護を促進するため、ブリスベン市と習志野市は関係者の連携を維持、強化する。」

行動計画

1　定期的な交換訪問に関しては、できれば以下の方針に従って参加する。

a　公式訪問

・　各々の市が２年に１度訪問する。

・　日程を調整し、受入れ側の市の活動を支援する。

年	ブリズベン市の習志野市訪問	習志野市のブリズベン市訪問
２００９		○
２０１０	○	
２０１１		○
２０１２	○	
２０１３		○

b　非公式の訪問

・　２年に１度訪問する。

・　日程の調整と受入れ側の市の活動を可能な範囲で支援する。

c　訪問は義務的に行われるのではなく、行政の財政的支援があれば行われる。

d　訪問の成果をあげるため、それぞれの湿地の日に交換訪問を実施する。

e　交換訪問のために資金助成内で活動をする地域のボランティアをできる限り支援する。

2　交換訪問が不可能な場合は、そのイベントに関連した情報の交換を検討する。

3　湿地協定とその目的に基づいた、湿地の保全と渡り性シギ・チドリの保護に係わる、渡り性シギ・チドリの情報を世界的に提供するためにブリズベン市と習志野市でそれぞれのホームページを創る。ホームページは湿地協定の行動計画を支援し、双方の活動を伝える。

4　ブーンドル湿地環境センターと谷津干潟自然観察センター及びボランティアやそのグループの関係を強化する。

管理調整

1　行動計画の実施確認のモニタリングを行う。

2　資金については通常予算で承認を得なければならない。

湿地協定のための本第３次５ヶ年計画はブリズベン・習志野の両市民間の相互協力の精神に基づいて合意され、両市長はその証としてここに署名する。

キャンベル　ニューマン
ブリズベン市市長

荒木　勇
習志野市市長

調印日

調印日　31/07/09

日本国千葉県習志野市
および
オーストラリア連邦クイーンズランド州ブリスベン市
における
谷津干潟ならびにブーンドル湿地
提携協定書
長期実施計画

背景

湿地は生物学的多様性ならびに高い生産性から価値のある最も重要な地球上の自然環境の一つである。湿地が持つさまざまな機能は人間社会にとって貴重であることを認識しつつも、世界各地では湿地の喪失、破壊、誤利用が続いている。湿地に対する関心の喪失の中、両市は1998年2月25日に市民の参加を得て湿地の保全ならびに渡り性シギ・チドリの保護に関する提携協定書を締結した。協定は第1次、第2次に続き、第3次の5カ年計画も成功裏に終了された。

ブリスベン市ならびに習志野市の代表者は、湿地の保全および渡り性シギ・チドリの保護に対する更なる行動の推進をめざし、提携協定書の結結継続に了意するものである。

実施計画ならびに行動要領

実施計画その1

「ブーンドル湿地および谷津干潟における湿地の保全ならびに渡り性シギ・チドリの保護に関する情報交換の支援」

行動要領

1. ブーンドル湿地環境センター（BWEC）ならびに谷津干潟自然観察センター（YHNOC）は下記事項の情報交換に努力する。
   - ブーンドル湿地ならびに谷津干潟に生息する動植物
   - 動植物の生息環境の回復ならびに水質浸透技術

   情報交換には両市の図書館、センターで展示閲覧されるBWECならびにYHNOCの機関誌、広報誌、刊行物が含まれる。

2. 情報交換には両国の行政機関に加え、千葉県の日本野鳥の会ならびにクイーンズランド州クイーンズランド渉禽類研究会などの民間機関による研究、情報、活動内容を含む。

実施計画その2

「対象地区の環境、湿地、水鳥の保護に熱意をもって携わるスタッフ、ボランティアへの支援」

行動要領

1. BWECおよびYHNOCスタッフ、ボランティアを対象に協定書の様式、渡り性シギ・チドリの保全ならびに生息環境の保護という重要な学習を支援する。

2. BWECおよびYHNOCスタッフ、ボランティアを対象に下記の支援活動を行う。

   - 地域区の学校、地域住民を対象に環境問題への取組みならびに活動の連絡
   - 機関誌、刊行物の発行
   - 協定書に係わる推進計画、情報の発信
   - YHNOCおよびBWECのボランティア活動の促進

3. BWECおよびYHNOCボランティアなど協定書に参加するグループとのネットワークならびに人間関係の強化。

実施計画その3

「湿地の自然環境の保全ならびに渡り性シギ・チドリの保護を目的に国際取決めをした両内外の協力団体ならびに地域団体に対する支援」

行動要領

1. 協力団体と提携しBWECおよびYHNOCは湿地ならびに渡り性シギ・チドリの保全、保護活動を推進する。

2. 審定書に賛同した協力団体のウエブサイト上に渡り性シギ・チドリが直面する生息問題を提起し、協力の呼びかけを掲載する。

3. 水鳥の生息環境改善ならびに行動要領を協力団体の負担にならない範囲で推進する。

4. 年次行事、あるいは小規模な連続行事を開催し干潟ならびに水鳥の保全・保護の意識向上に努める。行事は主に下記事項の準備、促進を念頭におくものとする。

   - ラムサール条約ならびに提携協定書の趣意、目的の明示
   - ブーンドル湿地ならびに谷津干潟の渡り性シギ・チドリの情報
   - 地区団体を参加できる活動計画
   - 東アジアオーストラリア地区フライウエイの情報ならびに直像にはバーンドル湿地ならびに谷津干潟の渡り性シギ・チドリが表示されること

   各行事の実施登録はビデオ、グスト名簿、記事、展示物、写真等は展示主に両方の環境センター宛に送付されるものとする。

5. BWECおよびYHNOCは最新の渡り性シギ・チドリ、干潟に関するディスプレイの制作、保管を進め、センターならびに関連施設で展示するほか、提携相互国で持ち回り展示をする。

6. 地域の学校、関連施設メンバーとの定期的な交換会を開催し、視察資料の共用を図る。

実施計画その4

「プリスベン市ならびに習志野市は継続的、緊密な関係を保つと共に、他の国際的団体と渡り性シギ・チドリならびに湿地帯の保護・保全活動を促進する」

行動要領

1. 協定書の実施計画を支援するため、下記に沿った定期的な交換訪問を模索する。
   a. 両市はそれぞれのスタッフ、ボランティアならびに協定書に示された三民グループからの参加者からなるメンバーの自主的訪問を支援する。訪問は任意とし、費用ならびに行政からの支援をもって実施する。定期交換訪問が不可能な場合は、いずれかの市が代案を提示することとする。訪問ができない場合はインターネット（スカイプ）によってすることができる。
   b. 通常の通信、あるいはウェブサイトを用い、干潟ならびに渡り性シギ・チドリの保護に関する提示をし、スタッフ、学生、市民の参加を呼びかける。
   c. 東アジア・オーストラリア地区フライウエイ・ネットワークは下記を持つ都市と情報を共有し必要に応じ支援提供の協力を行う。

管理編纂

1. 行動要領の交換確認はそれぞれの実施後に行う。
2. 報告書は3年ごとに交換し実績は共有されるための3年間の行動に活かす。
3. 財政は承認を受けた通常年間予算で行う。
4. 提携協定は当事者の一方からの申出がなければ満了時まで施行する。修正申立があった場合、関係者は改善策を協議する。

この長期提携協定書はプリスベンならびに習志野の同三民の相互協力精神に基づき合意された。その証として両市長はここに氏名を言葉する。

グンデム・ダレーク
プリスベン市長
調印日

宮本 泰介
習志野市長
調印日 平成29年2月13日
宮本泰介

＜年表＞

年　月　日	内　　容
1993 (H5).　6.10	習志野市の谷津干潟がラムサール条約登録湿地となる。 （COP5：北海道釧路市にて）
1993 (H5). 10.22	ブリスベン市のブーンドル湿地を含むモートン湾がラムサール条約登録湿地となる。
1994 (H6).　7.　1	谷津干潟自然観察センター（以下、YNOC）開設。
1995 (H7).　6.27	第 8 回日豪渡り鳥等保護会議にて、豪州側から日本との新たな湿地交流の提案が出される。 （釧路湿原とクーラガング湿地が既に湿地交流を行っている。）
1995 (H7).　7.19	環境庁より習志野市に湿地提携の打診がある。（口頭）
1996 (H8).　2.24	豪州政府関係者（豪州自然保護局長他 3 名）が習志野市を訪問。 谷津干潟を視察し、習志野市長と会談する。 湿地交流については、第 6 回ラムサール条約締約国会議（COP6）に参加し、開催地であるブリスベン市を視察してから検討する旨を回答。
1996 (H8).　3.16	ブーンドル湿地環境センター（以下、BWEC）開設。
1996 (H8).　3.22 ～27	第 6 回ラムサール条約締約国会議（COP6）出席。 東アジアオーストラリア地域シギ・チドリ類重要生息地ネットワーク発足セレモニー出席。 ブーンドル湿地を視察し、湿地提携について協議する。
1996 (H8). 11.13 ～16	ブリスベン市より副市長他が習志野市を訪問。 日本で開催された「自治体交流セミナー」に出席し、自治体交流事業で習志野市を訪問。 谷津干潟や習志野緑地等を視察し、ブリスベン市長宛ての湿地提携に向けた親書を依託する。
1997 (H9).　5.15 ～17	ブリスベン市より副市長他が習志野市を訪問。 湿地提携について協議し、ブリスベン市長からの親書を受け取る。
1997 (H9).　6.　8	「谷津干潟の日」宣言。
1997 (H9). 11.　5 ～　9	習志野市より環境部長および YNOC 所長がブリスベン市を訪問。 湿地提携について協議する。
1998(H10).　2.23 ～27	習志野市より市長他がブリスベン市を訪問。 湿地提携協定調印。（2 月 25 日） 「千葉県習志野市、日本およびクイーンズランド州ブリスベン市、オーストラリア両市に於ける谷津干潟およびブーンドル・ウエットランド湿地提携に関する協定」
1998(H10).　6.　5 ～10	ブリスベン市より議員他が習志野市を訪問。 「谷津干潟の日」イベント参加。
1998(H10).　7.17	ブリスベン市より副市長他が習志野市を訪問。 第 1 次 5 ヵ年計画について協議する。
1999(H11).　1.　9 ～16	習志野市より YNOC 所長他がブリスベン市を訪問。 カービング教室を開催し、カヌー体験や湿地保全作業を行う。 第 1 次 5 ヵ年計画について協議する。

年　月　日	内　　容
1999(H11).　3.　4	第 1 次 5 ヵ年計画調印。（メールにて） 「習志野市とブリスベン市の湿地提携に関する第 1 次 5 ヵ年計画 1999～2004」
1999(H11).　9.16	豪州政府関係者（環境自然文化省）が習志野市を訪問。 谷津干潟を視察する。
2000(H12).　1.　8 ～15	習志野市より YNOC 所長他がブリスベン市を訪問。 湿地関係者との交流や、湿地を視察し保全作業を行う。
2000(H12).　6.　9 ～12	ブリスベン市より市職員他が習志野市を訪問。 「谷津干潟の日」イベント参加。 「子供水鳥情報ネットワーク」発足に向けた呼びかけセレモニーを実施し、9 カ国 25 湿地に両市の小学生が作成した鳥のカービング 2 体とメッセージを送付する。
2001(H13).　6.　8 ～13	ブリスベン市より議員他が習志野市を訪問。 「谷津干潟の日」イベント参加。 「子供水鳥情報ネットワーク」について協議する。
2001(H13).　9.28 ～ 10.　3	習志野市より YNOC ボランティアがブリスベン市を訪問。 カービングおよび折り紙教室を開催、ナッジビーチにて底生生物を調査する。アン・ビーズリー碑に献花。
2002(H14).　2.　2	「アン・ビーズリーの丘」開設。
2002(H14).　3.21	板山筑波大学教授他がブリスベン市を訪問。 ブーンドル湿地の水質および泥質調査を行う。
2002(H14).　6.　8 ～10	ブリスベン市より議員他が習志野市を訪問。 「谷津干潟の日」イベント参加。 教育交流覚書（試行）の調印。 谷津南小学校を訪問し、チャット交流について協議する。
2002(H14).　8.28 ～29	ブリスベン市より議員他が習志野市を訪問。 アジア太平洋都市サミットへの出席要請。
2002(H14). 11.　8 ～14	習志野市より日本野鳥の会千葉県がブリスベン市を訪問。 QWSG によるバンディング作業を見学する。
2003(H15).　6.　5 ～　9	ブリスベン市より議員他が習志野市を訪問。 「谷津干潟の日」イベント参加。 第 2 次 5 ヵ年計画について協議する。
2003(H15). 10.19 ～23	習志野市より市長および議長他がブリスベン市を訪問。 アジア太平洋都市サミット出席。 第 2 次 5 ヵ年計画の調印。 「千葉県習志野市、日本およびクイーンズランド州ブリスベン市、オーストラリア両市における、谷津干潟およびブーンドルウエットランド湿地提携にかんする協定書のための第 2 次 5 ヵ年計画」 教育交流覚書の調印。 「クイーンズランド州教育省及びブリスベン市並びに習志野市教育委員会及び習志野市における教育交流覚書 2003 年～2006 年」
2004(H16).　6.　1 ～　7	ブリスベン市より議員他が習志野市を訪問。 市制施行 50 周年記念「谷津干潟の日」イベント参加。 クリーンセンターおよび富士吉田の家を視察し、谷津南小学校とアーンショウ校にてチャット交流を行う。
2004(H16).　7.29 ～　8　1	ブリスベン市より元市長が習志野市を訪問。 習志野市長を表敬訪問、谷津干潟を視察する。

年　月　日	内　　容
2004(H16). 10.　1 ～　6	習志野市より YNOC ボランティアがブリスベン市を訪問。 ブリスベン市長を表敬訪問、植樹を行い、折り紙教室を開催する。
2004(H16). 11.　4	谷津南小学校とアーンショウ校のチャット交流。 谷津南小学校の生徒は谷津干潟について調査した結果を紹介し、アーンショウ校の生徒はブーンドル湿地で学んだことを紹介する。
2005(H17).　5.16 ～17	ブリスベン市より副市長他が習志野市を訪問。 習志野市長を表敬訪問、「習志野市のバラ」贈呈について協議する。
2005(H17).　6.　5	習志野市とブリスベン市にてチャット交流を行う。 インターネットを活用し、習志野市長、ブリスベン市議会議員、両市民がチャット交流を行う。
2005(H17). 10.14 ～18	習志野市より日本野鳥の会千葉県がブリスベン市を訪問。 ブリスベン市長を表敬訪問、QWSG とワークショップを開催する。
2006(H18).　2.　3 ～　8	習志野市より市職員および YNOC 職員がブリスベン市を訪問。 「習志野市のバラ」を贈呈、「世界湿地の日」イベントに参加する。
2006(H18).　6.　8 ～12	ブリスベン市より議員他が習志野市を訪問。 「谷津干潟の日」イベント参加、谷津南小学校を訪問する。
2006(H18). 10.　2	ブリスベン市よりアーンショウ校の生徒および教員が習志野市を訪問。 谷津南小学校を訪問、谷津干潟を視察する。 富士山を見学し、富士吉田青年の家に宿泊する。
2007(H19).　4.　1	YNOC の運営に係る指定管理者制度導入。(1 期目) 【アーバンネイチャーマネジメントサービス有限責任事業組合】
2008(H20).　2.　1 ～　6	習志野市より YNOC 所長他がブリスベン市を訪問。 「世界湿地の日」イベントにて、紙芝居上映やバードブローチ作製教室を開催する。
2008(H20).　2.25	習志野市とブリスベン市の湿地提携が 10 周年を迎える。
2009(H21).　2.　7 ～11	習志野市より教育長、市職員他がブリスベン市を訪問。 第 3 次 5 ヵ年計画および教育交流覚書について協議する。 「衛星通信利用によるキアシシギ飛行ルートの追跡」について提案を受ける。
2009(H21).　5.30 ～　6.　9	ブリスベン市より QWSG 会長他が習志野市を訪問。 「谷津干潟の日」イベント参加、香澄公園を見学する。 「衛星通信利用によるキアシシギ飛行ルートの追跡」について協議する。
2009(H21).　7.31	第 3 次 5 ヵ年計画の調印。(郵送) 「千葉県習志野市とオーストラリア・クイーンズランド州ブリスベン市の谷津干潟およびブーンドルウエットランド湿地提携に関する協定　第 3 次 5 ヵ年行動計画」
2010(H22).　4.　1	YNOC の運営に係る指定管理者変更。(2 期目) 【社団法人アーバンネイチャーマネジメントサービス】
2010(H22).　5.31 ～　6.　9	ブリスベン市より市職員他が習志野市を訪問。 「谷津干潟の日」イベントおよびバンディング調査参加。
2010(H22). 10.23 ～28	習志野市より YNOC 職員（小山氏）がスタッフ研修のためブリスベン市を訪問。 ブーンドル湿地環境センター、ナッジビーチ環境教育センターを訪問し、環境教育プログラム等を視察。アーンショウ校を訪問し学校教育を視察したほか、シギ・チドリの越冬地や市内を視察した。

年　月　日	内　　容
2011(H23).　2.23 ～　3.　2	習志野市より YNOC ボランティアがブリスベン市を訪問。 ブリスベン市長を表敬訪問、「世界湿地の日」イベントに参加する。 「ジオロケーターによるキアシシギ渡りルートの解明」について協議する。
2011(H23).　3.　6	「ジオロケーターによるキアシシギ渡りルートの解明」事業開始。
2011(H23).　3.30	谷津干潟・ブーンドル湿地・藤前干潟（名古屋市）・スワンベイ干潟（オーストラリアのジロング市にあり、藤前干潟の姉妹湿地）において、それぞれのフィールドで活動する子供たちによって「子どもウェブ会議」を実施。 インターネットを活用し、それぞれの活動内容の紹介等を行った。
2011(H23). 11.23	谷津干潟・アーンショウ校（ブリスベン市）・米子水鳥公園（鳥取県米子市中海）・藤前干潟（名古屋市）において、インターネットを活用し「湿地ネット交流会～結ぼう、人と湿地の輪～」を実施。 谷津干潟ジュニアレンジャー・アーンショウ校生徒・中海ジュニアレンジャー・藤前干潟ガタレンジャーがそれぞれの湿地紹介クイズ等を行い、情報共有を図った。
2012(H24).　5.　3	YNOC および BWEC において、インターネットを活用し「自然情報交換会」を実施。 渡り鳥や湿地について情報交換を行い、ダニー・ドリル氏によるディジュリデュ演奏を披露した。
2012(H24).　7.31	クイーンズランド州の標識を装着したキアシシギ（刻印 JN）を谷津干潟にて確認。（2009 年 9 月 5 日にブリスベン市にて装着）
2012(H24).　8.12	クイーンズランド州の標識を装着したキョウジョシギ（刻印 HB）を谷津干潟にて確認。（2011 年 4 月 3 日にブリスベン市にて装着）
2012(H24).　8.16 ～21	ブリスベン市より市職員他が習志野市を訪問。 「谷津干潟&ブーンドル湿地ミニフェスティバル」参加。
2013(H25).　4.　9	クイーンズランド州の標識を装着したオオソリハシシギ（刻印 BCC）を谷津干潟にて確認。（2013 年 1 月 13 日にブリスベン市にて装着）
2013(H25).　5.18	市民有志による「Y&B 湿地交流協会」発足。
2013(H25).　8.24	平成 25 年度の「谷津干潟の日」事業の一環として、谷津干潟へのメッセージを書いた黄色いハンカチ、約 17,000 枚をつなぎ合わせて谷津干潟一周を包んだ。 メッセージは関係者や市民の他に、ブリスベン市長やブリスベン市の湿地交流関係者からもいただいた。
2013(H25). 10.23 ～30	習志野市より YNOC ボランティアがブリスベン市を訪問。 モートン湾ラムサール条約登録 20 周年記念イベント参加。
2015(H27).　4.　1	YNOC の運営に係る指定管理者変更。（3 期目） 【谷津干潟ワイズユース・パートナーズ】
2015(H27).　5.23 ～26	ブリスベン市より市職員他が習志野市を訪問。 習志野市長を表敬訪問、谷津南小学校を訪問する。 長期実施計画について協議する。
2015(H27).　5.―	「ジオロケーターによるキアシシギ渡りルートの解明」事業終了。
2016(H28).　3.―	「ジオロケーターによるキアシシギ渡りルートの解明」事業報告書発行。

年　月　日	内　　容
2016(H28).　5.　6	クイーンズランド州の標識を装着したキアシシギ（刻印 ARK）を谷津干潟にて確認。(2013 年 10 月 27 日にブリスベン市にて装着)
2016(H28). 10.21 ～24	習志野市より YNOC ボランティアがブリスベン市を訪問。 BWEC 設立 20 周年記念イベント参加。
2017(H29).　2.11 ～14	習志野市より市長他がブリスベン市を訪問。 長期実施計画の調印。 「日本国千葉県習志野市およびオーストラリア連邦クイーンズランド州ブリスベン市における谷津干潟ならびにブーンドル湿地提携協定書　長期実施計画」
2017(H29).　9.　8 ～11	ブリスベン市より市職員他が習志野市を訪問。 習志野市長を表敬訪問、オオヨシキリ営巣調査参加。 「ブリスベン市＆習志野市　湿地交流会（講演会)」を開催する。
2018(H30).　2.25	習志野市とブリスベン市の湿地提携が 20 周年を迎える。

＜訪問者一覧（50 音順）＞

	氏名	回数	掲載ページ
あ	相澤　慶一	1	P68
	青山　莞爾	1	P50
	阿久津　斉	10	P41、P43、P46、P48、P53、P55、P58、P59、P63、P65
	阿久津　光子	2	P43、P67
	東　昭夫	2	P33、P37
	安部　則子	1	P63
	安部　博	4	P33、P36、P37、P63
	荒木　勇	3	P33、P37、P50
	有田　和子	1	P43
	井浦　宏司	2	P41、P56
	石田　徹	1	P65
	一番が瀬　国彦	1	P48
	伊藤　義和	3	P37、P41、P43
	伊藤　陸渡	1	P65
	稲葉　仁	2	P48、P55
	井上　隆夫	1	P59
	今村　貞尭	5	P41、P43、P46、P53、P55
	宇井　文代	1	P67
	植松　榮人	1	P59
	鵜沢　滋彦	1	P50
	内田　俊行	1	P65
	海老原　幸作	1	P50
	及川　えみ	1	P67
	及川　樹也	1	P67
	大野　耕造	1	P33
	大橋　晃	1	P53
	大浜　清	1	P37
	帯包　文雄	1	P37
か	片岡　真智子	2	P48、P55
	勝亦　毅	2	P48、P55
	金井　悦子	1	P50
	川野　昌子	1	P63
	木村　順子	1	P46
	木村　瑞穂	1	P37
	慶田　浩一	1	P55
	慶田　昌子	2	P48、P55
	元田　泰三	1	P65
	越川　智子	1	P56
	小西　優子	1	P37
さ	斉藤　由紀	1	P37
	佐藤　正巳	1	P33
	澤　滋夫	2	P41、P50
	椎名　みづほ	1	P67
	志知　友美	1	P43
	渋谷　晟司	1	P58
	島田　義夫	1	P58
	志村　英雄	2	P48、P55
	下藤　美子	1	P50
	鈴木　希	1	P68
	鈴木　正志	1	P50

	氏名	回数	掲載ページ
	鈴木　葉子	1	P37
	仙洞田　博	2	P46、P53
	仙洞田　洋子	1	P53
た	高野　満里子	1	P63
	髙橋　モリ子	1	P55
	竹田　美智子	1	P37
	多田　敬一	1	P41
	多田　弘一	1	P56
	多田　稔	1	P37
	田中　寛	1	P46
	遠坂　弘	1	P41
	富岡　辰先	1	P37
	豊島　英夫	1	P50
な	直塚　ひろみ	1	P50
	直塚　基	1	P50
	中川　恵子	2	P48、P55
	永田　桂子	1	P58
	中野　達也	1	P55
	中野　仁志	2	P41、P43
	中村　容子	1	P37
	長安　誠	1	P56
	野中　志朗	2	P33、P59
は	長谷川　昭仁	10	P33、P36、P37、P41、P43、P50、P56、P58、P63、P65
	長谷川　敬子	1	P63
	長谷川　睦子	1	P50
	畑中　浩一	3	P53、P55、P58
	日向　洋美	1	P46
	日野　晶子	1	P65
	日野　陽子	1	P65
	平川　陽三	1	P37
	広川　ヨシ子	1	P50
	福島　泉	1	P33
	藤田　祐樹	1	P65
	星野　七奈	2	P56、P67
	保月　美世子	1	P37
ま	町田　昇	1	P48
	松井　淳	1	P37
	松川　裕	2	P55、P58
	松濱　幸子	1	P50
	松本　武美	1	P53
	三谷　茂則	1	P58
	三橋　隆広	1	P59
	宮村　美知子	1	P53
	宮村　庸一	4	P41、P46、P53、P58
	宮本　泰介	1	P68
	村山　貴弘	1	P56
	馬渡　和華	1	P63
	森田　三郎	1	P37
や	安川　浩	1	P50
	山岸　和郎	1	P50

	氏名	回数	掲載ページ
	山崎　奈緒美	1	P37
	山田　静子	1	P46
	山本　修身	1	P53
	山本　初恵	1	P53
	世木沢　君子	1	P37
	吉田　明子	2	P48、P55
	吉田　有希	1	P67
わ	和田　トミ江	1	P46
	渡辺　こと子	1	P53
	渡辺　信子	1	P46

合計１１１名（のべ１６０名）

	氏名（英）	氏名（和）	回数	掲載ページ
A	Andrew Geering	アンドリュー・ギアリング	1	P60
	Ann Beasley	アン・ビーズリー	1	P39
	Athena Moore	アシーナ・ムーア	1	P57
B	Bernard Green	バーナード・グリーン	1	P35
D	David Edwards	デイビッド・エドワーズ	1	P70
	David Fitzgibbon	デイビッド・フィッツギボン	4	P62、P64、P66、P70
	David Hinchcliffe	デイビット・ヒンチリフ	1	P54
	David Milton	デイビッド・ミルトン	1	P62
	Deane McLennan	ディーン・マクレナン	1	P47
	Desmond Sandy	ディズモンド・サンディ	1	P44
	Doug Watkins	ダグ・ワトキンス	1	P44
	Doug Yuille	ダグ・ユイル	1	P44
F	Felicity Moore	フェリシティ・ムーア	1	P64
G	Gemma Hawes	ジェマ・ハウズ	1	P70
	Geraldine Knapp	ジュラルディン・ナップ	1	P52
H	Helen Abrahams	ヘレン・アブラハム	1	P57
I	Ivell White	アイビル・ホワイト	1	P44
J	Jacinta Hamilton	ジェシンタ・ハミルトン	1	P64
	Jennifer Singfield	ジェニファー・シンフィールド	2	P60、P62
	Jim Mcdonnel	ジム・マクドネル	1	P45
	Jim Reeves	ジム・リーヴス	1	P40
	John Bowden	ジョン・ボーデン	1	P39
	John Campbell	ジョン・キャンベル	1	P34
	John Colman	ジョン・コールマン	1	P64
K	Kim Flesser	キム・フレッサー	2	P45、P49
L	Laurie Jeays	ローリー・ジェイズ	1	P45
	Linda Cross	リンダ・クロス	1	P66
	Lisa Johnston	リサ・ジョンストン	1	P64
M	Mark Baily	マーク・ベイリー	1	P39
	Martin Ryan	マーティン・ライアン	1	P64
	Mary-Ann Pattison	マリ・アン・パティソン	2	P39、P52
N	Natalie Martin	ナタリー・マーチン	1	P49
	Nicole Scurrah	ニコール・スカラ	1	P54
	Norma Clarke	ノーマ・クラーク	1	P52
P	Phil Cross	フィル・クロス	1	P66
R	Russell Luhrs	ラッセル・ルー	2	P49、P52
T	Tim Quinn	ティム・クイン	2	P35、P40
V	Victoria Newton	ヴィクトリア・ニュートン	2	P47、P52
Y	Yuri Soma	ユリ・ソーマ	1	P57

合計３９名(のべ４８名)

あとがき

習志野市とブリスベン市の湿地交流が 20 周年を迎え、この記念すべき節目に多くの方々からの御協力をいただき、「習志野市＆ブリスベン市湿地交流 20 周年記念誌」を発行することができました。

この記念誌の作成におきましては、過去の資料を調査したり、当時の関係者から聞き取りを行ったり、提供いただいた写真を時系列に並び替えたりすることで、点と点を結び合わせ 20 年の交流の歴史に少しでも触れることができたと思っております。

この記念誌では当時の状況について写真を中心に掲載しておりますが、ここで掲載している写真は全体のほんの一部にすぎません。しかしながら、この交流に携わってきた方々の熱い想いや国を超えて育まれた深い絆に思いを巡らせるには充分であると感じております。私たちはこの貴重な体験を次世代へ引き継ぐ必要があります。20 年の交流の歴史を辿るこの記念誌が今後の湿地交流に活用されることを望みます。

最後に、記念誌発行にあたり、快く御協力いただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

習志野市

習志野市&ブリスベン市
湿地交流 20 周年記念誌
2018 年 3 月　発行
発行・編集　習志野市都市環境部環境政策課